

シ ラ バ ス

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	1年 前期	専門科目	必修	2単位 30時間	授業形態(講義)
科目名	保育原理	担 当	佐藤 みつよ (実務経験者)		
			幼稚園に教諭として勤務		
【授業の概要】					
「保育とは何か」、保育所、幼稚園、認定こども園の保育(教育)の基本を説明する。また、保育者の仕事ができるように位置づけられ、何が期待されているのか考え、理解させる。					
【授業の到達目標】					
保育の理念・役割・制度・実践を、保育所保育指針をふまえ、理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	保育について		保育の理念、保育所と保育士の社会的役割と責任		
2	子どもと保育に関する法令(1)		子ども家庭福祉における保育と関係法令		
3	子どもと保育に関する法令(2)		児童福祉施設の種類とその目的、子ども・子育て支援新制度		
4	子どもと保育に関する法令(3)		地域子ども子育て支援事業		
5	保育所について学ぶ(1)		保育所保育指針とは、保育所の目的と役割、保育所保育の目標		
6	保育所について学ぶ(2)		保育に関わるねらい及び内容、小学校との連携		
7	幼稚園について学ぶ		幼稚園教育の目的、目標、保育方法の基本原則		
8	幼保連携型認定こども園について学ぶ		幼保連携型認定こども園の目的、目標、内容		
9	保育所保育の方法		環境を通して行う保育、保育所保育の方法		
10	保育の計画と評価		保育の計画、保育の過程、部分実習指導案		
11	子どもの理解に基づく保育		子どもの発達過程の理解と保育、個人差に応じた保育		
12	地域社会で行う子育ての支援		各施設や地域の人たちによる子育て支援		
13	障害児を受け入れる保育		障害児保育について、保護者及び関係機関との連携		
14	保育の歴史		幼児教育・保育をめぐる動向、教育・保育思想		
15	日本の保育の現状		子ども・子育て支援新制度の誕生、幼保一元化		
【成績評価の方法と基準】					
前学期定期考査60点、提出物・受講姿勢40点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
岡田耕一(編著)『保育原理 子どもの保育の基本理論の理解』萌文書林、2019 厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	1年 前期	専門科目	必修	2単位 30時間	授業形態(講義)
科目名	子どもの保健	担 当	片倉 孝子 (実務経験者)		
			病院に看護師として勤務		
【授業の概要】					
子どもの命を守り、健やかな育ちを支える為に必要な医学的知識を理解し、適切な判断ができる保育者になれるよう基本的な知識と対応技術を教授する。					
【授業の到達目標】					
・子どもの心身の成長と発達を理解する。 ・子どもの健康状態の把握、主な症状が理解できる。 ・子どもの主な疾患の特徴が理解できる。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	子どもの生命・情緒の安定、保健活動の意義と目的		保育の対象となる子どもを理解し、生命の保持・情緒の安定を考える		
2	健康の概念と健康指標		健康の概念とヘルスプロモーション「QOL」について考える 健康を理解するための指標の理解		
3	子どもの健康と母子保健対策		母子保健対策と医療対策の理解		
4	地域における保健活動・虐待防止		母子保健、成人保健、高齢者保健、感染症対策、学校保健の概要、 児童虐待とは		
5	身体発育および運動機能の発達と保健		子どもの発達過程「身体発育運動機能の発達」		
6	生理機能の発達と保健		循環機能、消化機能、腎機能の解剖学と疾病との関連について理解する		
7	健康状態の観察および心身の不調の早期発見		子どものバイタルサイン、症状の理解ができる		
8	発育・発達の把握と健康診断		個々の発育、発達の確認、チェック方法を獲得し子どもの発達支援につなげる		
9	保護者との情報共有		「気づき」のズレが無いよう保護者とのコミュニケーションの取り方を学ぶ		
10	子どもの主な疾患の特徴①		新生児の病気の特徴、先天性疾患の特徴の理解		
11	子どもの主な疾患の特徴②		循環器、呼吸器、血液、消化器の病気の特徴の理解		
12	子どもの主な疾患の特徴③		アレルギー、免疫、腎泌尿器、内分泌の病気 アナフィラキシーショックの対応が実践できる		
13	子どもの主な疾患の特徴④		脳の病気、その他の病気の特徴の理解		
14	子どもの主な疾患の特徴⑤		感染症の理解、スタンダードプリコーションの理解		
15	子どもの主な疾患の予防と適切な対応		感染経路を理解し対応を適切に行うための知識の理解		
【成績評価の方法と基準】					
前学期定期考査80点、受講姿勢20点により評価する。100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
児童育成協会(監)松田博雄・金森三枝(編)『新・基本保育シリーズ⑪ 子どもの保健』中央法規、2019					
【参考書】					
赤ちゃんの病気新百科・育児の基本辞典その他、必要に応じ紹介する。					
【備 考】					
コロナ感染状況を踏まえ、感染症知識・グループワーク等は状況に応じ実施する。					

シ ラ バ ス

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	1年 前期	専門科目	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	保育内容(人間関係Ⅰ)	担 当	沖田 由紀子 (実務経験者)		
			保育所に保育士及び所長として勤務		
【授業の概要】					
乳幼児が人との相互的関わりを通して発達していくことを理解した上で、「自立心を育て人とかかわる力の基礎を培う」ための望ましい指導及び援助について事例を通して学びを深める。					
【授業の到達目標】					
・養護及び教育に関わる保育内容の関連性を理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。 ・領域「人間関係」のねらい及び内容、内容の取扱いを理解する。 ・さまざまな事例を通して、人と関わる力の発達、及び、その基礎を培うための保育者の役割について理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	幼児期の教育の基本①		幼児期に育む3つの資質・能力、養護と教育の一体性		
2	幼児期の教育の基本②		幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、主体的・対話的で深い学び		
3	幼児期の教育の基本③		幼児期にふさわしい生活の展開、環境を通しての保育、遊びを通しての総合的な指導・援助、計画的な環境の構成について		
4	保育者の役割、領域「人間関係」のねらい		保育者の役割キーワード、領域「人間関係」のねらい及び内容		
5	乳幼児期の発達と領域「人間関係」①		愛着の形成、自我の芽生え等 0歳児		
6	乳幼児期の発達と領域「人間関係」②		自我の芽生え・第一次反抗期等 1・2歳児		
7	乳幼児期の発達と領域「人間関係」③		友だちとの出会いを通して 3歳児		
8	乳幼児期の発達と領域「人間関係」④		友だちとの出会いやぶつかりを通して 4・5歳児		
9	人とかかわる力を育む保育者のかかわり①		信頼関係の構築及び自己主張を支える保育者の役割		
10	人とかかわる力を育む保育者のかかわり②		子ども同士の関係をつなぐ保育者の役割		
11	人とかかわる力を育む保育者のかかわり③		自立を支える、人間関係の広がりを見守る保育者の役割		
12	遊びのなかの人との関わり①		遊びの役割、遊びの楽しさについてグループワーク		
13	遊びのなかの人との関わり②		遊びのタイプ、遊びの種類、遊びと仲間について		
14	家庭生活を通して育つ人とかかわり		愛着や基本的信頼関係の形成、価値観やルール等		
15	まとめ		学びの振り返り		
【成績評価の方法と基準】					
前学期定期考査70点、提出物10点、積極的な受講姿勢20点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
無藤隆(監)岩立京子(編者)『事例で学ぶ保育内容 領域 人間関係』萌文書林、2018 厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【参考書】					
随時指示する					
【備 考】					
乳幼児期の子どもの発達や遊びの状況などに関心をもち、情報の収集に努めましょう。					

シ ラ バ ス

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	1年 前期	専門科目	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	保育内容(表現Ⅰ)	担 当	梶原 礼 (実務経験者)		
			幼稚園に教諭として勤務		
【授業の概要】					
乳幼児の遊びや生活、表現の特徴、発達の姿、それを促す保育者の役割等について教授する。					
【授業の到達目標】					
・領域「表現」のねらい、内容、内容の取扱いについて理解する。 ・乳幼児の表現の特徴や表現の発達、それを促す要因について理解する。 ・さまざまな事例を通して、豊かな感性や表現する力、及び、その基礎を培うための保育者の役割について理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	幼児教育の基本①		幼児教育の捉え方		
2	幼児教育の基本②		環境を通しての保育、遊びを通しての総合的な指導		
3	幼児教育の基本③		保育者の役割		
4	幼児教育と領域「表現」①		領域「表現」のねらい及び内容 乳児、1歳以上3歳未満児		
5	幼児教育と領域「表現」②		領域「表現」のねらい及び内容 3歳以上児		
6	乳幼児期の発達と表現①		豊かな表現を支える援助や環境 乳児、1歳以上3歳未満児		
7	乳幼児期の発達と表現②		豊かな表現を支える援助や環境 3歳以上児		
8	生活のなかにあるものをあじわい、感性を養う		色・形、歌・動き、手触り		
9	自然やものの美しさに触れる		自然の美しさに触れる、飾る・変身する		
10	コミュニケーションとしての表現		まねる・見せる、友だちを受け止める・話し合う		
11	保育者が支える表現①		表現を支える保育者の基本的なあり方		
12	保育者が支える表現②		豊かな表現を支える援助や環境		
13	子どもの豊かな感性と音楽表現		乳幼児にとっての音楽表現とは		
14	子どもの豊かな感性と造形表現		乳幼児にとっての造形表現とは		
15	領域「表現」の現代的課題と新たな試み、まとめ		現代における「表現」の問題、表現の評価、授業の振り返り		
【成績評価の方法と基準】					
前学期定期考査70点、提出物・受講姿勢30点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
浜口順子(編)『新訂 事例で学ぶ保育内容＜領域＞表現』萌文書林、2018 厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					

基本情報	1年 前期	専門科目	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	造形表現Ⅰ	担 当	工藤 祐子		
【授業の概要】					
ワークシートによる演習を通して、造形表現の指導に必要な資質や能力を身に付けさせる。また、子どもの描画理解を深めさせ、発達段階に応じた造形指導ができるよう教授する。					
【授業の到達目標】					
・保育所保育指針の内容や造形指導に関する事項を演習を通して理解する。 ・表現及び鑑賞の発達段階や幼児期の個性的表現を理解する。 ・表現及び鑑賞の経験から知識・技能、発想・構想力を養う。 ・保育の造形指導にふさわしい教材や指導方法を研究することができる。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	ガイダンス（自分の図工や美術の歩み）		テキストを使用し、これからの学習の目標、方法、計画を知る。		
2	表紙からはじまる世界①		造形ノートの表紙を目的をもったデザインとしてアイデアスケッチする。		
3	表紙からはじまる世界②		アイデアスケッチをもとに身近な材料を工夫して使い、自己のイメージを表現する。		
4	表紙からはじまる世界③		完成後は互いの作品を鑑賞し、良い点などを言葉で表現する。		
5	紙芝居DE自己紹介①		課題を理解して、アイデアスケッチを描く。		
6	紙芝居DE自己紹介②		技法や仕掛けなど表現方法を工夫して、制作をすすめる。		
7	紙芝居DE自己紹介③		伝えたい内容を明確に表現できているか確認しながら制作を進める。		
8	紙芝居DE自己紹介④		制作した紙芝居で自己紹介をし、互いの発表を鑑賞し、それぞれの良い点を言葉で表現する。		
9	絵の具で遊ぼうーモダンテクニクー①		モダンテクニクの技法理解とその演習。		
10	絵の具で遊ぼうーモダンテクニクー②		モダンテクニクの演習作品とその名称、技法内容を指導資料としてまとめる。応用の方法、発達段階に応じた指導方法について研究する。		
11	絵の具で遊ぼうーモダンテクニクー③		モダンテクニクの技法を用いて自由な発想で制作を行う。		
12	きみもアーティストーモダンテクニクー④		制作を通して発達段階に応じたモダンテクニクの活用についてまとめる。		
13	色と構成で表す感情やイメージ①		色のイメージを理解し、画面構成の配置の良さに気付く。		
14	色と構成で表す感情やイメージ②		色のイメージを理解し、画面構成による様々な感情を表現する。		
15	造形ノートのまとめ		ワークシートや表現課題を「造形ノート」に視覚的にわかりやすくまとめ、自己評価表を記入する。		
【成績評価の方法と基準】					
演習作品70点、授業への取り組み(関心・意欲・態度)や造形ノート(学習内容の記録・考察・鑑賞)30点により評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
北沢昌代・畠山智宏・中村光絵(著)『子どもの造形表現ーワークシートで学ぶー 第2版』開成出版、2019					
【参考書】					
厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【備 考】					
事前に必要な用具や準備物を連絡するので忘れずに注意する。					

シ ラ バ ス

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	1年 前期	専門科目	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	総合表現Ⅰ	担 当	渡邊 繁治		
【授業の概要】					
指導者による実演を鑑賞したり作品を制作して実演したりすることによって、表現することの楽しさを知るとともに、保育の現場での活用方法や効果的な表現方法について考える。また演じるために必要な準備や態度、技術を教授する。					
【授業の到達目標】					
・パネルシアターの作り方の手順や方法を理解して制作する。 ・タオルあそびの活用法を理解し、幼児を想定してオリジナルのタオルあそびを考案する。 ・パネルシアターやタオルあそびの実演を通して、子ども達に対しての効果的な表現力や技術を体得する。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	児童文化とは(講話と実演鑑賞)		パネルシアターの鑑賞。授業の内容や到達目標及び評価基準について説明する。		
2	パネルシアター:基礎講座		パネルシアターの歴史や基礎的な内容の講話を行う。		
3	パネルシアター:絵人形の制作		課題作品の中から選んだ作品をグループごとに制作する(下描き、色塗り)。		
4	パネルシアター:絵人形の制作		課題作品のグループ制作を行う(色塗り)。		
5	パネルシアター:絵人形の制作		課題作品のグループ制作を行う(色塗り、アウトライン)。		
6	パネルシアター:絵人形の制作		課題作品のグループ制作を行う(アウトライン、仕掛け)。		
7	パネルシアター:実演練習		演じ方の基礎を知り、グループごとに実演練習をする。		
8	パネルシアター:実演練習		舞台の設置を知り、グループごとに実演練習をする。		
9	パネルシアター:発表会(クラス内)		クラス内で、パネルシアターの発表会を行う。		
10	発表会の振り返りとタオル遊びを知る		発表会についての感想発表を行う。 タオル遊びを体験しながら幼稚園での活用などについて知る。		
11	タオル遊びの実演		テキストを活用して、グループでやってみたいタオル遊びの練習をする。		
12	タオル遊びの実演		テキストを活用して、グループごとに練習したタオル遊びを発表する。		
13	タオル遊びの創作1		グループごとにオリジナルのタオル遊びを創作する。		
14	タオル遊びの創作2		グループごとにオリジナルのタオル遊びを創作・発表練習をする。		
15	タオル遊び:発表会(クラス内)		グループごとに創作したタオル遊びを発表する。		
【成績評価の方法と基準】					
授業への取り組み(関心・意欲・態度)40点、発表会での発表や態度20点、制作課題20点、学びのについてのレポート20点により評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
松家まきこ(著)『0歳から楽しめる ふわふわタオルあそび』学研、2019					
【参考書】					
古宇田亮順・松家まきこ・藤田佳子(著)『実習に役立つパネルシアターハンドブック』萌文書林、2009					
【備 考】					

シ ラ バ ス

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	1年 前期	専門科目	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	音楽Ⅰ	担 当	渡邊 砂子		
【授業の概要】					
音楽の基礎知識を学び、リズム表現や創作活動を通して、保育者に求められる音楽表現技術を教授する。					
【授業の到達目標】					
・保育者に求められる音楽の基礎知識を理解する。 ・子どもの情操や感性を豊かにするため、いろいろなリズム表現を工夫することができる。 ・音楽を創作する力を身に付ける。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	楽譜のしくみ		楽譜上の記号等の名称や意味、音符と鍵盤の関係についての理解		
2	楽譜の読み方		ト音譜表・ヘ音譜表の理解といろいろな高さの音符の階名読み		
3	いろいろなリズムや拍子		言葉のもつリズムと音符や休符のリズム表現		
4	リズムの聴き取り		いろいろなリズムを聴いて楽譜に書く		
5	リズム表現①		ボディパーカッション		
6	リズム表現②		ボイスアンサンブル		
7	リズム表現③		ボイスアンサンブル		
8	音階と調		いろいろな音階と移調の理解		
9	和音と伴奏		主要三和音と伴奏の工夫		
10	言葉とリズムとメロディ		オノマトペとリズム遊び		
11	旋律創作①		「子どもの歌」の歌詞と旋律づくり		
12	旋律創作②		「子どもの歌」の歌詞と旋律づくり		
13	旋律創作③		「子どもの歌」の歌詞と旋律づくり		
14	旋律創作④		「子どもの歌」の伴奏づくり		
15	まとめと発表		「子どもの歌」の発表とまとめ		
【成績評価の方法と基準】					
授業中の実技発表・作品の提出等70点、受講姿勢30点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
今川恭子・志民一成・木村充子他(編著)『おんがくのしくみー歌って動いてつくってわかる音楽理論ー』教育芸術社、2014					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					

シ ラ バ ス

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	1年 前期	専門分野	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	音楽表現Ⅱ	担 当	田北 嘉奈子		
【授業の概要】					
リトミックの体験とさまざまな楽器を使って豊かな音楽表現が出来るように教授する。					
【授業の到達目標】					
乳幼児の音楽表現活動の楽しさを理解し、乳幼児の発達に即したリトミックによる身体表現活動や楽器遊びの指導ができる。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	乳幼児の音楽指導の歴史		ダルクローズのリトミックを理解する。		
2	保育におけるリトミック教育について①		リトミックの基礎を体験する。		
3	保育におけるリトミック教育について②		リトミックの基礎を体験する。		
4	保育におけるリトミック教育について③		リトミックの基礎を体験する。		
5	保育におけるリトミック教育について④		リトミックを応用し自分の指導に取り入れられるようにする。		
6	保育におけるリトミック教育について⑤		リトミックで使うピアノ演奏の練習と指導案を作る。		
7	保育におけるリトミック教育について⑥		リトミックで使うピアノ演奏の練習と指導案を作る。		
8	リトミックを取り入れた音楽あそびの発表		グループごとに発表する。		
9	リトミックを取り入れた音楽あそびの発表		グループごとに発表する。		
10	リトミックを取り入れた音楽あそびの発表		グループごとに発表する。		
11	さまざまな楽器で表現活動①		さまざまな楽器の使い方を理解する。		
12	さまざまな楽器で表現活動②		さまざまな楽器で音色リズムなどを表現する。		
13	さまざまな楽器で表現活動③		さまざまな楽器を使い合奏を体験する。		
14	さまざまな楽器で表現活動④		さまざまな楽器を使い合奏を体験する。		
15	音楽表現についての理解とまとめ		音楽表現について復習し理解を深める。		
【成績評価の方法と基準】					
授業中の実技発表70点、受講姿勢30点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
八木正一(監)竹内貞一(編)『保育者養成のための音楽表現』大学図書出版、2020					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					

基本情報	1年 前期	専門科目	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	器楽Ⅰ	担 当	関 純子 米田 昌子 田北 嘉奈子 安部 千鶴		
【授業の概要】					
保育に必要な音楽教育のために、テキスト教材を使った個人授業を行い、ピアノの演奏技術を教授する。					
【授業の到達目標】					
・保育者に求められるピアノの演奏技術と音楽表現の基礎を身に付ける。 ・子どもの歌を曲の表情に合わせて表現する力を身に付ける。 ・子どもの表情や動きに合わせて演奏する力を身に付ける。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	ハ長調の音階		大譜表、音部記号、拍子記号、音名と鍵盤の関係の理解		
2	ハ長調の音階、1番		音階の運指と流れ、全音・半音の理解		
3	1、22番、「手をたたきましょう」		右手♪のリズム、左手和音(ⅠⅤ $\flat$)の理解		
4	22、23番、「手をたたきましょう」		左手和音Ⅰ、Ⅴ $\flat$ の音型(密集、分散)の理解、音符や休符の正しい捉え		
5	51番、「手をたたきましょう」、「シャボン玉」		3／4拍子の捉え方、付点音符や♪のリズム、1オクターブの跳躍		
6	51、「シャボン玉」、「こげよ マイケル」		タイとレガートの理解、付点8分音符と16分音符のリズム、デュナーミク		
7	42番、「シャボン玉」、「おべんとう」、「こいのぼり」		左手の伴奏形の変化、コードネームの理解		
8	53番、77番、「おべんとう」「かえるのがっしょう」「GoodMorning」		6／8拍子の捉え方、右手の6度の音程と左手の分散和音		
9	53番、48番、「大きなくりの木の下で」		レガート奏、ドルチェ、デュナーミク、A-B-Aの楽曲の流れ 曲の盛り上がり		
10	53番、「大きなくりの木の下で」「かたつむり」		左手和音の移動をスムーズに、力まずに弾く		
11	69番、「むすんでひらいて」、「かもつれっしゃ」		フレーズ感を演奏に生かす、半音階と臨時記号		
12	69番、82番、「むすんでひらいて」「お正月」		外声の動きを感じて、3度の重音の移動とアクセント、左手の保持音		
13	54番、「お正月」「ぞうさん」「やぎさんゆうびん」		へ長調の移調、曲の組み立て、テンポ感や表現する力を身に付ける		
14	54番、「おもちゃのチャチャチャ」「バスごっこ」		拍子やフレーズ感、左右の音量バランスを意識する 試験の課題曲を中心に前期学んだ内容を振り返る		
15	前学期の課題の復習・まとめ		課題曲で行う実技試験 夏季休業中の課題		
【成績評価の方法と基準】					
課題曲で行う実技試験70点、授業時の実技評価及び受講姿勢30点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
大学音楽教育研究グループ(編著)『教職課程のための大学ピアノ教本 バイエルとツェルニーによる展開』教育芸術社、2014 鈴木恵津子・富田英也(監修・編著)『改訂ポケットいっぱいのうた 実践こどものうた 簡単に弾ける144選』教育芸術社、2017					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					

基本情報	1年 前期	専門科目	必修	2単位 30時間	授業形態(講義)
科目名	乳児保育Ⅰ	担 当	田中 洋		
【授業の概要】					
子どもの人格発達における基礎は乳幼児期の物的・人的環境に大きく影響を及ぼす。このような子どもを取り巻く環境は、子どもの人格発達を促すうえで欠くべからざるものと考えられており、「発達環境」と呼ばれている。この授業では、乳幼児期の発達とそれを促す「発達環境」について、保育および保育士の役割、業務、専門性と関連させながら学ぶことを目的とする。あわせて、保育所以外の機関における取り組みにもふれ、乳児保育の現状と課題について理解する。					
【授業の到達目標】					
・乳幼児期の発達過程および子どもを取り巻く環境(発達環境)が与える影響について理解する。 ・保育所および保育士の役割、業務および専門性について理解する。 ・乳児保育における発達支援および保護者支援とは何か、そのあり方について理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	乳児保育の意義・目的		乳児保育の定義およびその社会的役割		
2	乳児保育の歴史と現状		乳児保育の歴史および現状(社会背景)		
3	乳児保育に関わるさまざまな法律		児童福祉法ならびに育児・介護休業法など		
4	「保育所保育指針」の目的・内容		「保育所保育指針」の目的・内容について		
5	乳児保育のポイント①「ねらい」と「内容」		「保育所保育指針」にみる保育所の役割など		
6	乳児保育のポイント②「視点」と「領域」		保育の「ねらい」及び「内容」の示し方など		
7	人生の基礎としての乳児期		ポルトマンの「生理的早産」と人間発達の独自性		
8	乳児のこころの発達① 基礎		人間発達の基本的理解		
9	乳児のこころの発達② 愛着		身近な人との絆を育む過程		
10	乳児のこころの発達③ 言葉の発達		思いを伝え合う手段を得る過程		
11	乳児のからだ		からだの発達と運動機能の発達		
12	乳児保育における複数担任制		同僚性と保育者間の連携のあり方		
13	保育所で過ごす1日の流れ		0・1・2歳のデイリープログラムについて		
14	保護者との連携		保護者との関係性の確立と協働		
15	発達の遅れと向き合う		発達の診断と早期対応		
【成績評価の方法と基準】					
前学期定期考査70点、レポート20点、受講姿勢10点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。評価は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
志村聡子(編著)『はじめて学ぶ乳児保育 第三版』同文書院、2022 厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【参考書】					
内閣府・文部科学省・厚生労働省(編)『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館、2018					
【備 考】					
・『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』を自分なりのペースで読み込み、理解する。 ・復習に力を入れて、学習したことを常に確認する。 ・クラスやグループで意見交換や関連資料の提示を活発に行い、学びを共有し合う。					

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報		1年 通年(前期)	専門科目	必修	通年2単位 前期30時間	授業形態(演習)
科目名	保育実習指導Ⅰ		担 当	安東 和子 沖田 由紀子(実務経験者) 渡邊 砂子 佐藤 みつよ(実務経験者) 梶原 礼(実務経験者) 保育所に保育士並びに所長として勤務 幼稚園に教諭として勤務 幼稚園に教諭として勤務		
【授業の概要】						
保育所及び保育所以外の児童福祉施設での実習を円滑に進めるため、その役割や機能、実習の心構え等について学び、保育実習ⅠA(保育所)・ⅠB(施設)に備えさせる。						
【授業の到達目標】						
・保育実習の意義・目的を理解する。 ・実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 ・実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 ・実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 ・実習の事後指導をとおして、実習の総括と自己評価を行い次年度の実習課題を明らかにする。						
【授業の計画】				【内 容】		
1	保 施	保育実習の目的と概要		保育士養成課程における保育実習の位置づけを理解するとともに実習の意義や目的、実習の流れや内容を学ぶ。		
2	保	保育所の仕事を知る①		保育士の仕事、保育所の一日の流れについて理解する。		
3	施	施設実習の意義と目的		児童福祉施設の根拠法令である児童福祉法を確認するとともに、各施設の種別、対象者、援助内容等を学ぶ。		
4	保	保育所の仕事を知る②		保育所実習の概要、目的と内容等を理解する。		
5	施	児童福祉施設を知る		実習施設の運営理念、方針、対象者、支援内容等を調べ、実習施設を理解する。		
6	保	手遊び、絵本の読み聞かせについて		手遊びや絵本の読み聞かせについて、意義や方法等を学ぶ。		
7	施	施設保育士の役割		施設保育士の業務や家庭支援、自立支援のための取り組みについて学び、関係機関との連携について理解する。		
8	保	実習園の概要・特色等について		実習園について、保育方針や保育目標等を調べる。		
9	施	児童福祉施設における実習の留意点		生活支援の意味や権利擁護、自立支援、家庭支援などを学び保育者にとって必要な知識や技術について理解する。		
10	保	関係法令について		保育士に関わる法令のポイントを確認する。		
11	施	実習施設希望調査書の提出		施設実習を希望する施設を選択・決定する。		
12	保	手遊び実践		2、3歳児を想定した手遊びをする。		
13	施	保育実習中の出来事への対応		施設利用者との関わりの中で困った事やトラブルへの対応について理解する。		
14	保	実習園事前オリエンテーションについて		オリエンテーションの意義や打ち合わせ事項及びプロフィールの内容を確認する。		
15	施	障害のある子どもへの理解		発達障害のある子どもの障害の状態や発達段階、特性等を理解する。		
【成績評価の方法と基準】						
課題提出・配布資料の整理70点、受講態度30点、通年で評価する。 100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。						
【テキスト】						
厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018						
【参考書】						
【備 考】						
手遊びや絵本の読み聞かせ等を順番に実践しますので、各自練習しておくこと。						

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	1年 前期	教養科目	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	英語 I	担 当	瀬口 珠美		
【授業の概要】					
以下の活動を通して、外国語学習の基礎力を育成するとともに表現力を高めるよう教授する。 1. 基本文法の確認、問題演習 2. 発音練習、音読練習、英作文、発表 3. テキスト通読、語句の確認、概要把握、音読練習、問題ノート					
【授業の到達目標】					
・基礎的な英文法を理解し、平易な語句・構文を用いて、自分の考えや伝えたいことを表現する努力を通じて保育現場に必要なコミュニケーション能力を高める。 ・映画を通じて自然な英語表現や異文化に触れ、保育に欠かせない多様な価値観への興味関心を深めることで、公平・公正さを身につける。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	オリエンテーション		授業の進め方、グループワーク&プレゼンテーション、課題について説明		
2	1 Ohtani Shohei's Amazing Comeback		本文理解		
3	2 MISO de SMILE		本文理解		
4	3 Yellowstone National Parl		本文理解		
5	4 The Age if Space Tourism Has Arrived!		本文理解		
6	5 American Football		本文理解		
7	6 Capybaras		本文理解		
8	7 Takagi Miho: Speedslater		本文理解		
9	特集 Newa Watcher		単語確認、それぞれのニュースについてグループで調べ、発表		
10	1 & 2		文法理解、英作文		
11	3 & 4		文法理解、英作文		
12	5 & 6		文法理解、英作文		
13	7		文法理解、英作文		
14	1～7		英作文総復習		
15	1～7		個別英作文指導		
【成績評価の方法と基準】					
前学期定期考査60点、授業時の活動への参加状況や受講姿勢20点、課題への取り組み20点により評価する。 100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
浜島書店編集部(編)『Watching Light 2022-2023 』浜島書店					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					
英和辞典(高校時代のもので、紙の辞書が望ましい)、ノート2冊またはルーズリーフ					

シ ラ バ ス

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	1年 前期	教養科目	必修	1単位 30時間	授業形態(講義)
科目名	保健体育Ⅰ	担 当	工藤 冴		
【授業の概要】					
自己の健康について考えさせるとともに、健康を維持・増進するために必要な運動やストレスの対処法について、基本的な知識を教授する。また、今日の学校保健の問題について興味を持ち、問題解決のための知識を身に付けさせる。					
【授業の到達目標】					
・自分自身の身体や健康について理解する。 ・運動の必要性や方法を理解し、積極的に運動をするようになる。 ・応急手当の方法を理解し、事故が起きた際に対処できるようになる。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	ガイダンス		授業内容について、自分自身の運動習慣について考える		
2	健康な生活とは		健康の捉え方について		
3	生活習慣病と関連する要因		生活習慣病について		
4	体力とは何か		体力の定義について		
5	運動のしくみ		運動のしくみについて		
6	トレーニングとは		トレーニングの方法について		
7	健康を維持・増進するための運動		有酸素運動について		
8	ダイエットの計画		ダイエットについて		
9	運動と水分補給の関係		体温調節の仕組みや熱中症について		
10	ウォーミングアップとクーリングダウン		ウォーミングアップなどについて		
11	応急手当とは		応急手当の基本		
12	スポーツと心理の関わり		スポーツの心理的効果について		
13	薬物乱用や喫煙		薬物乱用や喫煙、飲酒と健康の関係について		
14	ストレスへの対処法		ストレスについて、ストレスの対処法について		
15	まとめ		スポーツを身近に考える、まとめ		
【成績評価の方法と基準】					
前学期定期考査70点、受講姿勢・提出物30点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
出村慎一(監)『健康・スポーツ科学講義 第2版』杏林書院、2019					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					

シ ラ バ ス

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	1年 後期	専門科目	必修	2単位 30時間	授業形態(講義)
科目名	子ども家庭福祉	担 当	川野 義人 (実務経験者)		
			児童養護施設の所属長として勤務		
【授業の概要】					
子ども家庭福祉の歩みや現状・課題を知り、保育士としての役割を考える。					
【授業の到達目標】					
保育士に求められている役割を自覚し、「児童の最善の利益」を考えた日々の支援ができるとともに親や他職種と連携した地域の子育て支援ができる保育士の養成を目指す。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	子ども家庭福祉の理念と概念		子どもの権利条約の成立、子どもの最善の利益		
2	子ども家庭福祉の歴史的変遷と諸外国の動向		諸外国の歴史的変遷や動向、子育ての担い手の変化		
3	子どもの人権擁護		子どもの権利条約批准と日本の法改正の現状		
4	子ども家庭福祉の制度と実施体制		児童福祉法及び関連法律の制定・改正と実施機関の変化		
5	子ども家庭福祉の施設と専門職		他機関・他職種との連携の必要性和保育士の役割・倫理		
6	少子化と地域子育て支援		少子化対策の変遷、新しい子育て支援制度の現状と課題		
7	母子保健と子どもの健全育成		妊娠から学童期までの支援体制、今後の課題		
8	多様な保育ニーズへの対応		多様な保育ニーズに対応する仕組み、障害児支援の現状		
9	子ども虐待・ドメスティックバイオレンスとその予防		現状の理解、防止の取り組み、保育士に求められる対応		
10	貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応		子どもの貧困の現状、外国籍の子どもと家庭への対応		
11	社会的養護		児童福祉法改正と社会的養育ビジョンの課題		
12	障がいのある子どもへの対応		障害児支援の変遷、配慮された子育て支援		
13	少年非行等への対応		非行専門施設の歴史や現状、育ち直しの支援の意味		
14	次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進		次世代育成支援対策推進等の子育て支援制度		
15	地域における連携・協働とネットワーク		家庭や地域住民・他の専門機関との連携・協働の仕方		
【成績評価の方法と基準】					
後期定期考査60点、小論文15点、ジェノグラム・エコマップ15点、・ノート、出席状況10点の100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
児童育成協会(監)新保幸男、小林理(編)『新・基本保育シリーズ③ 子ども家庭福祉 第2版』中央法規、2023					
【参考書】					
ミネルヴァ書房編集部(編)『社会福祉小六法2023』ミネルヴァ書房、2023					
【備 考】					

基本情報	1年 後期	専門科目	必修	2単位 30時間	授業形態(講義)
科目名	社会的養護Ⅰ	担 当	安東 和子		
【授業の概要】					
社会的養護の意義と歴史の変遷、社会的養護の基本について理解させる。また、社会的養護の制度や法体系等について学び、社会的養護に関わる専門職としての倫理と責務等の涵養を図る。					
【授業の到達目標】					
・ 社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 ・ 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 ・ 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 ・ 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 ・ 社会的養護の現状と課題について理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	社会的養護の理念と概念		社会的養護の概念及びその理念と原理について学ぶ。また、社会的養護の基盤づくりについて理解する。		
2	社会的養護の歴史の変遷		欧米や日本における社会的養護の歴史を学び、これらの歴史を踏まえ、子ども観の変遷について理解する。		
3	子どもの人権擁護と社会的養護		社会的養護におけるこどもたちの人権擁護とらえ方、その具体的養護の在り方や課題について学ぶ。		
4	社会的養護の基本原則		家庭養育優先原則の根拠法令や条約等を学び、アイデンティティ形成の観点から養育環境について考える。		
5	社会的養護における保育士等の倫理と責務		社会的養護に関わる専門職の行動規範である倫理とその責務について考える。		
6	社会的養護の制度と法体系		措置制度とその背景、児童福祉法の概要、関連法規を学び、日本の社会的養護の制度と法体系について理解する。		
7	社会的養護のしくみと実施体系		社会的養護の施設等の目的と概要、今後の課題を学び、社会的養護のしくみと実施体系について理解する。		
8	社会的養護とファミリーソーシャルワーク		ソーシャルワークの基本的な視点や考えを理解したうえで、社会的養護におけるソーシャルワークの展開について学ぶ。		
9	社会的養護の対象と支援のあり方		予防的支援等を必要とする子どもや家族の抱えているニーズを確認し、社会的養護の対象の子どもや家庭への理解を深める。		
10	家庭養護と施設養護		施設養護の現状や里親制度、ファミリーホームの現状を学び、施設養護と家庭養護との相違点について理解する。		
11	社会的養護に関わる専門職		社会的養護に求められる専門性や資格、施設以外の保育士と連携する他の職種について理解する。		
12	社会的養護に関する社会的状況		養子縁組を含む社会的養護の在り方について考え、子どもが育つ基盤である家庭と社会的養護の存在意義を理解する。		
13	施設等の運営管理の現状と課題		社会的養護に係る基本理念を実現するための、施設運営に関わる内容と費用のしくみや在り方について考える。		
14	被措置児童等の虐待防止の現状と課題		被措置児童等虐待について理解し、被措置児童等の虐待現状を統計から概観し、その発生要因と課題について考える。		
15	社会的養護の地域福祉の現状と課題		児童福祉施設の地域支援、地域貢献の在り方を学び、社会的養護と地域福祉の課題について学ぶ。		
【成績評価の方法と基準】					
後学期定期考査50点、課題レポート40点、受講態度10点の100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
児童育成協会(監)相澤仁・林浩康(編)『新基本保育シリーズ⑥ 第2版 社会的養護Ⅰ』中央法規、2019					
【参考書】					
【備 考】					

シ ラ バ ス

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	1年 後期	専門科目	必修	2単位 30時間	授業形態(講義)
科目名	保育の心理学	担 当	佐藤 みつよ (実務経験者)		
			幼稚園に教諭として勤務		
【授業の概要】					
心身の発達や学びの過程について心理学的知見を中心に説明する。心理学の知識と保育場面での事例とを関連づけながら、子どもへの関わり方や保育環境などを考えられるようにしていく。					
【授業の到達目標】					
・保育者として必要な心身の発達に関わる心理学の知識を学び、子どもや保育に対する理解を深める。 ・乳幼児期の学びの過程や特性を知り、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	子どもの発達を理解することの意義		発達と個人差、アセスメントと子ども理解		
2	子どもを取り巻く環境と発達		子どもを取り巻く環境、発達を規定する要因		
3	環境としての保育者と子どもへの影響		人的環境としての保育者、保育者の役割と専門性		
4	発達理論と子ども観		発達原理、発達理論(ピアジェ、エリクソン)、子ども観		
5	子どもの知覚の発達		子どもの知覚特性、感覚機能の発達		
6	子どもの身体・運動発達		身体・運動発達の特徴、粗大運動・微細運動の発達		
7	愛着の形成と発達		愛着関係の発達、愛着形成の方法・援助		
8	子どもの情緒・欲求の発達		情緒の発達、欲求の発達		
9	社会情動的発達		自己意識の発達、社会情動的スキルの発達		
10	子どもの言語・コミュニケーションの発達		乳幼児期のコミュニケーション、言語の発達		
11	子どもの認知発達		認知発達、記憶の発達		
12	子どもの学びに関わる理論		学習の定義、条件づけ学習、問題解決学習、観察学習		
13	学びの動機づけ		動機づけとは、外発的動機づけ、内発的動機づけ		
14	乳幼児期の学びの過程と特性		主体的に学ぶことの重要性、遊びの分類と発達		
15	乳幼児期の学びを支える保育		子どもを取り巻く現状と課題、課題に応じた保育		
【成績評価の方法と基準】					
後学期定期考査60点、提出物・受講姿勢40点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
瀧口綾・福田真奈(編著)『保育士を育てる①保育の心理学』一藝社、2020					
【参考書】					
厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【備 考】					

シ ラ バ ス

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	1年 後期	専門科目	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	保育内容(健康Ⅰ)	担 当	工藤 冨		
【授業の概要】					
乳幼児の身体の発達や運動発達を理解させるとともに、領域「健康」の視点から健康な生活の基盤をどう育てていけばよいのか学びを深めるよう教授する。					
【授業の到達目標】					
・領域「健康」のねらい及び内容、内容の取扱いについて理解する。 ・乳幼児の身体の発達や生活習慣、運動発達について理解する。 ・乳幼児期の安全について考えることができる。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	ガイダンス		授業の進め方、成績評価の方法などについて		
2	保育内容・領域の基本		5領域とねらい及び内容について		
3	保育の基本と領域「健康」		保育の基本と保育者の役割、領域「健康」の特徴		
4	子どもが健康に育つために求められること		養護が基本の保育、領域「健康」に求められる多様さ		
5	えのくま幼稚園園児の観察・触れ合い		えのくま幼稚園の園児の観察・触れ合いをととしての学び		
6	乳幼児期の身体の発達と健康		身体の形態的発達、身体の機能的発達		
7	乳幼児期の生活リズムと生活習慣		生活リズムの現状と課題、基本的生活習慣の現状と課題		
8	乳幼児期の食生活		子どもの食を取り巻く現状と課題、楽しい食の支援について		
9	アレルギー		アレルギー発症のメカニズム、食物アレルギーへの対応		
10	乳幼児期の運動発達①		乳児期の運動発達の特徴、幼児期の運動発達の特徴		
11	乳幼児期の運動発達②		遊びの重要性、運動遊びが育むたくましい心		
12	えのくま幼稚園園児の観察・触れ合い		えのくま幼稚園の園児の観察・触れ合いをととしての学び		
13	乳幼児期の安全①		乳児・1～2歳児の安全、3歳児以上の安全		
14	乳幼児期の安全①		安全教育と危険の捉え方、子どもの事故と怪我		
15	まとめ		授業のまとめ、振り返り		
【成績評価の方法と基準】					
後学期定期考査70点、受講姿勢・提出物30点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
河邊貴子・鈴木康弘・渡邊英則(編著)『新しい保育講座⑦ 保育内容「健康」』ミネルヴァ書房、2020 厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【参考書】					
随時指示する					
【備 考】					

シラバス

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	1年 後期	専門科目	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	保育内容(環境Ⅰ)	担 当	久保田 貴子 (実務経験者)		
			幼稚園に教諭及び園長として勤務		
【授業の概要】					
養護及び教育を一体的に行うことを特性とする保育所保育で育みたい資質・能力は、保育活動全体で培われることを理解した上で、領域「環境」の視点から、発達過程における保育内容や保育者の行う環境の構成や援助について具体的な事例を通して学びを深める。					
【授業の到達目標】					
・領域「環境」のねらい、内容、内容の取扱いについて理解する。 ・身近な環境と子どもとの具体的な姿から、様々な環境の意義について理解する。 ・子どもが環境とかかわる具体的な保育場面での保育者の役割を理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	幼児期の教育の基本①		幼児期にふさわしい教育、育みたい資質・能力、保育内容		
2	幼児期の教育の基本②		保育者の役割、領域「環境」のねらい・内容・内容の取扱い		
3	乳幼児の育ちと領域「環境」		乳幼児期の発達と環境との関わり、養護と教育の一体性		
4	園児との芋ほり①		環境の構成・保育者としてののかかわりについて		
5	園児との芋ほり②		子ども理解と援助・省察・まとめ		
6	自然環境への関わり①		自然体験、身近な自然素材との関わりの意味、環境構成や援助		
7	自然環境への関わり②		植物や生き物との関わりを通しての育ち、環境の構成や援助		
8	ものや道具との関わり①		遊具、身近なものとの関わりの意味や学び、保育者の援助		
9	ものや道具との関わり②		発達に応じたものや道具、保育者の援助		
10	子どもの遊びを考える① グループワーク		教材研究、環境の構成、援助の在り方		
11	子どもの遊びを考える② グループワーク		グループごとに発表、意見交換		
12	文字や標識、数量や図形への関心①		標識や文字等への関心・感覚を育む環境構成や援助		
13	文字や標識、数量や図形への関心②		数量・図形等への関心・感覚を育む環境構成や援助		
14	遊びや生活の情報への興味、地域への親しみ		身近な情報、異年齢児との交流、地域・日本文化との触れ合い		
15	まとめ		授業のまとめ、振り返り		
【成績評価の方法と基準】					
後学期定期考査70点、受講姿勢・グループワークの取り組み・提出物30点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
無藤隆(監)福元真由美(編者代表)『事例で学ぶ保育内容〈領域〉環境』萌文書林、2018 厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【参考書】					
随時指示する					
【備 考】					
乳幼児期の子ども達が、周りの草花や生き物・いろいろな物や出来事・人などに、どのようにかかわったり関心をもったりしているでしょうか。意識して見ようとするといろいろな姿が見えて来ますよ。					

シ ラ バ ス

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	1年 後期	専門科目	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	保育内容(言葉Ⅰ)	担 当	梶原 礼 (実務経験者)		
			幼稚園に教諭として勤務		
【授業の概要】					
講義や演習を通して、領域「言葉」のねらいや内容、子どもの発達、保育者の役割等について教授する。					
【授業の到達目標】					
・領域「言葉」のねらい、内容、他領域との関係について理解する。 ・乳幼児が言葉を獲得して行く道筋と、それにかかわる保育者の役割について理解する。 ・素話について、声の出し方や幼児に対する話し方などを知り、表現の技術を身につける。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	幼児教育の基本と領域「言葉」		教育・保育の基本と領域「言葉」		
2	領域「言葉」のねらいと内容①		領域「言葉」のねらい及び内容 乳児、1歳以上3歳未満児		
3	領域「言葉」のねらいと内容②		領域「言葉」のねらい及び内容 3歳以上児		
4	領域「言葉」と他領域との関係／素話①		領域「言葉」の考え方と総合的な指導／素話について		
5	領域「言葉」における評価／素話②		発達と評価の観点／素話題材選び		
6	子どもの発達と言葉①		言葉のもつ意義と機能		
7	子どもの発達と言葉②		子どもの言葉の発達		
8	子どもの発達と言葉③／素話③		言葉の発達と人とのかわり／素話グループ発表、意見交換		
9	子どもの言葉と保育の実際①		言葉を育む保育者の役割と援助		
10	子どもの言葉と保育の実際②		子どもの生活と言葉、子どもの遊びと言葉		
11	子どもの言葉と保育の実際③／素話④		「聞く」「話す」ことを通した体験／素話グループ発表、意見交換		
12	子どもの言葉と保育の実際④		書き言葉が伝える世界		
13	言葉の発達が気になる子ども		幼児音、吃音、場面緘黙		
14	素話⑤		素話発表		
15	素話⑥／まとめ		素話発表、授業の振り返り		
【成績評価の方法と基準】					
後学期定期考査60点、表現技術20点、提出物・受講姿勢20点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
藪中征世・玉瀬友美・星野美穂子(編)『新版 保育内容・言葉 -乳幼児のこころを育む-』教育出版、2017 厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	1年 後期	専門科目	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	音楽表現Ⅰ	担 当	渡邊 砂子		
【授業の概要】					
自然で美しい発声による歌唱表現のための基礎的な知識・技術を教授する。					
【授業の到達目標】					
・保育者として自然な声の出し方・歌い方を身に付ける。 ・童謡やわらべ歌、歌曲等をとおして、曲のよさや特徴を生かした歌い方の工夫をすることができる。 ・アンサンブル曲をとおして指揮の方法やまとめ方について学ぶ。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	歌唱表現の基礎①発声		声の仕組み・発声法について、声域調査1		
2	歌唱表現の基礎②音程の取り方		正しい音程の取り方・歌い方について		
3	歌唱表現の基礎③旋律の歌い方		長調の旋律の歌い方(コンコーネ)		
4	歌唱表現の基礎④旋律の歌い方		短調の旋律の歌い方(コンコーネ)		
5	歌唱表現の工夫①		「ドレミの歌」とミュージカル		
6	歌唱表現の工夫②		「ドレミの歌」とミュージカル		
7	四季の歌の表現の工夫		日本の季節の歌のよさを味わいながら工夫して歌う 「もみじ」「冬げしき」他		
8	日本歌曲の表現の工夫		日本歌曲のよさを味わいながら工夫して歌う 「花」「早春賦」他		
9	世界の歌曲の表現の工夫		世界の歌曲のよさを味わい表現を工夫して歌う 「野薔薇」「いとしい人よ」他		
10	アンサンブルの工夫①		輪唱の楽しさ、ハーモニーの美しさを味わう		
11	アンサンブルの工夫②		合唱の歌い方の工夫、指揮の仕方		
12	アンサンブルの工夫③		合唱の歌い方の工夫、指揮の仕方		
13	アンサンブルの工夫④		合唱の歌い方の工夫、指揮の仕方		
14	アンサンブルの工夫⑤		合唱の歌い方の工夫、指揮の仕方		
15	まとめ		声域調査2、授業のまとめ、振り返り		
【成績評価の方法と基準】					
授業中の実技発表70点、小テストや課題の提出等30点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
荒井弘高・中尾かつ江・三沢大樹(編著)『歌唱の基礎』圭文社、2017 鈴木恵津子・富田英也(監修・編著)『改訂 ポケットいっぱいのうた』教育芸術社、2017					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					

シ ラ バ ス

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	1年 後期	専門科目	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	総合表現Ⅱ	担 当	渡邊 繁治		
【授業の概要】					
幼稚園でのパネルシアター公演を企画・開催することによって、表現することの楽しさや子ども達との関わり方を実際に体感する。ミニパネルシアターの制作や実演を通して、子ども達に対しての効果的な活用や演じ方について考える。					
【授業の到達目標】					
・幼稚園での公演を通して、子ども達とのコミュニケーションを楽しみ、子ども達の反応や喜びを実際に味わう。 ・子ども達に寄り添う温かな気持ちを培い、保育における効果的な表現力や技術力を習得する。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	えのくま幼稚園児対象公演に向けての話し合いと公演練習		公演の会場作りや公演内容などの打ち合わせをし、グループ練習を行う。		
2	公演練習(グループ・全体)と最終打ち合わせ		グループ練習を行う。本番に向けての最終打ち合わせを行う。		
3	えのくま幼稚園児対象のパネルシアター公演		パネルシアター公演を実施する。		
4	えのくま幼稚園児対象のパネルシアター公演		パネルシアター公演を実施する。		
5	えのくま幼稚園公演の振り返り		えのくま幼稚園の公演を振り返り、自分や仲間の発表についての意見を交換し、レポートにまとめる。		
6	鑑賞とミニパネルシアターボードの制作		ミニパネルシアターを観賞し、自分用のボードを制作する。		
7	ミニパネルシアター:制作		自分用の絵人形の制作をする(下描き・色塗り)。		
8	ミニパネルシアター:制作		絵人形の制作をする(色塗り)。		
9	ミニパネルシアター:制作		絵人形の制作をする(アウトライン、仕掛け)。		
10	ミニパネルシアター:制作		プレゼントや登場人物のオリジナルを考えて制作する。		
11	ミニパネルシアターの実演練習と発表		こどもとのコミュニケーションを大切にしたい演じ方を考えて練習し、発表する。		
12	ブラックシアター鑑賞と制作方法		講師によるブラックシアターを観賞し、制作の方法や演じ方について知る。		
13	ブラックシアター「どんな花火」の制作		「どんな花火」のオリジナルの花火を制作し、演じる。		
14	ブラックシアター「どんな花火」の発表会(クラス内)		「どんな花火」のオリジナルの花火を発表する。		
15	1年間の振り返りとまとめ		1年間の取り組みを振り返り、感想文を書く。		
【成績評価の方法と基準】					
授業への取り組み(関心・意欲・態度)40点、公演や発表会での発表や態度20点、制作課題20点、学びのについてのレポート20点により評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
松家まきこ(著)『0歳から楽しめるふわふわタオルあそび』 学研、2019					
【参考書】					
古宇田亮順・松家まきこ・藤田佳子(著)『実習に役立つパネルシアターハンドブック』 萌文書林、2009					
【備 考】					

シ ラ バ ス

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	1年 後期	専門科目	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	器楽Ⅱ	担 当	関 純子 米田 昌子 田北 嘉奈子 安部 千鶴		
【授業の概要】					
テキスト教材を使った個人授業を行い、保育者に求められるピアノの演奏技術を教授する。					
【授業の到達目標】					
・保育者に求められるピアノの演奏技術と音楽表現の基礎を身に付ける。 ・子どもの歌を曲の表情に合わせて表現する力を身に付ける。 ・子どもの表情や動きに合わせて演奏する力を身に付ける。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	へ長調の音階、「ゆりかごの歌」		音階の流れと運指(シ♭)に気を付けて演奏		
2	27番、「ゆりかごの歌」		へ長調の和音Ⅰ、Ⅴの形、柔らかに歌う工夫		
3	27番、59番、「ゆりかごの歌」「きらきら星」		シンコペーション、A－A'－B－A'の曲の形		
4	59番、79番、「豆まき」		スタッカートや八分休符を生かした弾き方、アレグレット		
5	79番、60番、「豆まき」、「ブンブンブン」		右手の順次進行をスムーズに、左手三連符をレガートで、コモド		
6	60番、84番、「おばけなんてないさ」		アウフタクトの曲、右手ポジション移動、左手和音の並進行		
7	84番、「朝の歌」、「たなばたさま」		3／8拍子の曲を学ぶ、付点のリズムを生かした弾き方		
8	84番、「朝の歌」、「おかえりのうた」		付点のリズムを生かす、スタカティッシモによる間をためての効果とデュナーミク		
9	28番、「おかえりのうた」		スタッカートとスタカティッシモ、左手ポジションの速やかな移動、8vaの演奏、アレグロ		
10	98番、29番、「ありさんのおはなし」		2／4拍子の軽快なマーチ・3／4拍子の軽いワルツのリズム、装飾音符の演奏、反進行の動き		
11	98番、61番、「ありさんのおはなし」、「まつぼっくり」		メロディの変奏、16分音符の軽やかな動き		
12	98番、30番、「まつぼっくり」		左手和音の連打、左手跳躍の伴奏の形とアルペルティのバスの形		
13	98番、99番、「まつぼっくり」		マーチの曲を使つての実践を意識した演奏の工夫 お話をするような歌い方の工夫 リタルダンドの演奏の仕方		
14	教本、「とんでったバナナ」		試験の課題曲を中心に後期学んだ内容の振り返り		
15	後期の課題の復習・まとめ		後期の試験を行う 次年度へ向けての課題		
【成績評価の方法と基準】					
課題曲で行う実技試験70点、授業時の実技評価及び受講姿勢30点により評価する。 100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
大学音楽教育研究グループ(編著)『教職課程のための大学ピアノ教本 バイエルとツェルニーによる展開』教育芸術社、2014 鈴木恵津子・富田英也(監修・編著)『改訂ポケットいっぱいのうた 実践こどものうた 簡単に弾ける144選』教育芸術社、2017					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	1年 後期	専門科目	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	乳児保育Ⅱ	担 当	田中 洋		
【授業の概要】					
乳児保育の基本は安心・安定した保育者と乳児の人間関係を基礎とし、ゆったりとした環境、じっくりとした取り組みによって進められることを理解する。その上に立って、本授業では、0・1・2歳児の年齢ごとの生活の流れや保育環境、援助の実際および健康・安全と情緒の安定等への配慮について理解し、具体的な指導計画・個別計画と評価について学習を深めることを目的とする。					
【授業の到達目標】					
・乳児の発達過程を理解し、安心・安定した環境の中で乳児に寄り添える保育力を養う基礎をつくる。 ・保育所保育の特性である養護と教育の一体性や5領域につながる「3つの視点」について理解する。 ・実践事例を通して、保育計画と実際との関係について理解する。 ・保護者との連携、職種間の協働の重要性について学ぶ。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	乳児とのふれあいの基本を学ぶ		だっこのしかた、おんぶのしかた		
2	乳児の衣服の基礎知識		衣服の特徴と扱い方		
3	衣服の着せ方、脱がせ方		着替えの配慮のポイントを学ぶ		
4	おむつ替えと「おむつはずれ」		おむつ替えの基本		
5	授乳のしかたとその準備		調乳のしかた、授乳のしかたの基本		
6	離乳食の基礎知識		離乳の基本的考え方と介助		
7	沐浴のしかたと清拭のしかた		乳児のからだを清潔に保つためには		
8	保育環境の衛生管理		子どもの生活の場を清潔に保つには		
9	かみつき・ひっかきへの対応		トラブルの背景と保護者との連携		
10	乳児保育における安全管理①		乳児突然死症候群(SIDS)について		
11	乳児保育における安全管理②		安全保育と安全能力の育成		
12	乳児保育における安全管理③		保育環境の整備と保育技術としての管理		
13	「気になる子」への対応①		発達に遅れや「こまり」を抱える子への対応		
14	「気になる子」への対応②		保育者間の連携と協働		
15	保護者との連携と協働		保育者と保護者との関係性について		
【成績評価の方法と基準】					
後学期定期考査70点、レポート20点、受講姿勢10点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
志村聡子(編著)『はじめて学ぶ乳児保育 第三版』同文書院、2022 厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【参考書】					
内閣府・文部科学省・厚生労働省(編)『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館、2018					
【備 考】					
・『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』を自分なりのペースで読み込み、理解する。 ・復習に力を入れて、学習したことを常に確認する。 ・クラスやグループで意見交換や関連資料の提示を活発に行い、学びを共有し合う。					

シ ラ バ ス

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報		1年 通年(後期)	専門科目	必修	通年2単位 後期30時間	授業形態(演習)
科目名	保育実習指導Ⅰ		担 当	安東 和子 沖田 由紀子(実務経験者) 渡邊 砂子 佐藤 みつよ(実務経験者) 梶原 礼(実務経験者) 保育所に保育士並びに所長として勤務 幼稚園に教諭として勤務 幼稚園に教諭として勤務		
【授業の概要】						
保育所及び保育所以外の児童福祉施設での実習を円滑に進めるため、その役割や機能、実習の心構え等について学び、保育実習ⅠA(保育所)・ⅠB(施設)に備えさせる。						
【授業の到達目標】						
・保育実習の意義・目的を理解する。 ・実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 ・実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 ・実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 ・実習の事後指導をとおして、実習の総括と自己評価を行い次年度の実習課題を明らかにする。						
【授業の計画】				【内 容】		
16	保 施	えのくま幼稚園での保育観察及び振り返り		えのくま幼稚園での保育観察をとおして、保育者と子どもとの関わりを学ぶ。		
17	保 施	事前オリエンテーションに係る持参書類について		プロフィール、誓約書、評価票等、準備する書類を確認する。		
18	施	実習課題について		自己の実習課題について、実習期間を見通しを持って過ごすためのめあて・目標を明確にする。		
19	保 施	保育実践①4名 手遊び&絵本の読み聞かせ		4名の手遊び、絵本の読み聞かせの実践をとおして、各自、感想や改善点を省察用紙に記入し成果を共有する。		
20	保 施	保育実践②4名 手遊び&絵本の読み聞かせ		同上		
21	保 施	保育実践③4名 手遊び&絵本の読み聞かせ		同上		
22	保 施	保育実践④4名 手遊び&絵本の読み聞かせ		同上		
23	保 施	保育実践⑤4名 手遊び&絵本の読み聞かせ		同上		
24	保 施	保育実践⑥4名 手遊び&絵本の読み聞かせ		同上		
25	保 施	保育実践⑦4名 手遊び&絵本の読み聞かせ		同上		
26	保 施	保育実践⑧4名 手遊び&絵本の読み聞かせ		同上		
27	保	実習日誌の書き方について		実習日誌を書く意義や記録の視点について学ぶ。		
28	施	実習日誌の書き方について		実習日誌を書く意義や記録の視点について学ぶ。		
29	保 施	実習日誌・クリアファイルの作成		実習日誌のファイルを作成する。クリアファイルを整備する。		
30	保 施	事後指導		評価票面接 今後の課題を明確にする。		
【成績評価の方法と基準】						
課題提出・配布資料の整理70点、受講態度30点、通年で評価する。 100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。						
【テキスト】						
厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018						
【参考書】						
【備 考】						

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	1年 後期	専門科目	必修	2単位 90時間	授業形態(実習)
科目名	保育実習ⅠA(保育所)	担 当	沖田 由紀子(実務経験者)	渡邊 砂子	佐藤 みつよ(実務経験者)
			保育士並びに保育所長として勤務		幼稚園に教諭として勤務
【授業の概要】					
各自が希望した保育園(所)での実習(観察・参加実習を主としながら部分実習もある)を10日間行う。子どもと生活しながら授業で学んだ保育の知識や技術の体験的な理解、及び観察を通しての子ども理解を深める。					
【授業の到達目標】					
・保育所の役割や機能を具体的に理解する。 ・観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 ・既習の教科目の内容を踏まえ、保育及び保護者への支援について総合的に理解を深める。 ・保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 ・保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
○各自の希望する保育園(所)で実習を行う。 ○実習期間は10日間 令和6年2月13日(火)～2月24日(土)			1 保育所の役割と機能 (1) 保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり (2) 保育所保育指針に基づく保育の展開 2 子どもの理解 (1) 子どもの観察とその記録による理解 (2) 子どもの発達過程の理解・援助や関わり 3 保育内容・保育環境 (1) 保育の計画に基づく保育内容 (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容 (3) 子どもの生活や遊びと保育環境 (4) 子どもの健康と安全 4 保育の計画・観察・記録・省察 5 専門職としての保育士の役割と職業倫理		
【成績評価の方法と基準】					
実習園の評価70点、実習日誌・感想文等の提出物30点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【参考書】					
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、2018					
【備 考】					
実習は乳幼児と共に過ごしながらその本質に触れる貴重な機会なので、意欲的・主体的に取り組む学びを深めましょう。 社会人としてのマナーも注目されますので留意してください。					

シ ラ バ ス

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	1年 後期	専門科目	必修	2単位 90時間	授業形態(実習)
科目名	保育実習ⅠB(施設)	担 当	安東 和子 梶原 礼(実務経験者) 工藤 冴		
			幼稚園に教諭として勤務		
【授業の概要】					
保育所以外の児童福祉施設で10日間実習を実施する。施設の社会的役割や機能、利用者の生活と一日の流れを理解し、支援の実際を学ぶ。また、気づいたことや疑問に感じたことなどについて、その背景や要因を考察し、記録する。一日の終わりには省察し、翌日の実習に生かす。					
【授業の到達目標】					
・児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 ・観察や子どもとの関わりをとおして子どもへの理解を深める。 ・既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育や保護者への支援について総合的に理解する。 ・保育の計画・観察・記録および自己評価等について具体的に理解する。 ・施設保育士の業務内容や職業倫理について、具体的に理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
① 実習期間 令和6年2月29日(木)～令和6年3月13日(水)			1 施設の役割と機能 ① 施設における子どもの生活と保育士の援助や役割 ② 地域における施設の役割と機能		
② 実習場所 ・児童養護施設 ・障害児入所施設 ・乳児院 ・母子生活支援施設 ・児童発達支援センター ・生活介護施設 等			2 子ども理解 ① 子どもの観察とその記録 ② 個々の状態に応じた援助や関わり		
			3 施設における子どもの生活と環境 ① 計画に基づく活動や援助 ② 子どもの心身の状態に応じた生活と対応 ③ 子どもの活動と環境 ④ 健康管理、安全対策の理解		
			4 計画と記録 ① 支援計画の理解と活用 ② 記録に基づく省察・自己評価		
			5 保育士の役割と倫理 ① 保育士の業務内容 ② 職員間の役割分担や連携 ③ 保育士の職業倫理		
【成績評価の方法と基準】					
実習施設の評価70点、実習日誌・感想文・指導案等30点の100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【参考書】					
【備 考】					

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	1年 後期	教養科目	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	英語Ⅱ	担 当	瀬口 珠美		
【授業の概要】					
以下の活動を通して、外国語学習の基礎力を育成するとともに表現力を高めるよう教授する。 1. 基本文法の確認、問題演習 2. 発音練習、音読練習、英作文、発表 3. テキスト通読、語句の確認、概要把握、音読練習、問題ノート					
【授業の到達目標】					
・基礎的な英文法を理解し、平易な語句・構文を用いて、自分の考えや伝えたいことを表現する努力を通じて保育現場に必要なコミュニケーション能力を高める。 ・映画を通じて自然な英語表現や異文化に触れ、保育に欠かせない多様な価値観への興味関心を深めることで、公平・公正さを身につける。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	8 Oymyakon, the World's Coldest Village		本文理解		
2	9 Eco-Friendly <i>Kudeju</i> Furniture		本文理解		
3	10 Can Crickets Solve Food Shortage?		本文理解		
4	11 Japanese Traditional Culture: <i>Kyogi Karuta</i>		本文理解		
5	12 Kyu-Can-Cho Project		本文理解		
6	13 Omune Kosuke: Clown		本文理解		
7	13 Pictgrams Go Beyond Borders		本文理解		
8	特集		宇宙について興味のあることを話し合い、発表する		
9	異文化理解		映画鑑賞、文法理解、英作文		
10	異文化理解(英語・米語の違い)		映画鑑賞、文法理解、英作文		
11	後期復習		英作文総復習		
12	後期復習		個別英作文指導		
13	相互理解		英作文総復習		
14	英作文指導		個別発表・指導		
15	後期復習		総合問題		
【成績評価の方法と基準】					
後学期定期考査60点、授業時の活動への参加状況や受講姿勢20点、課題への取り組み20点により評価する。 100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
浜島書店編集部(編)『Watching Light 2022-2023』浜島書店 文法学習プリント、英文記事の抜粋 等 ※授業時に配布					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					
英和辞典(高校時代のもので、紙の辞書が望ましい)、ノート2冊またはルーズリーフ					

シ ラ バ ス

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	1年 後期	教養科目	必修	1単位 30時間	授業形態(実技)
科目名	保健体育Ⅱ	担 当	工藤 冨		
【授業の概要】					
様々な運動をとおして、身体を動かす事の楽しさや心地よさを自らの身体で体験し、進んで運動を行うようになるよう教授する。					
【授業の到達目標】					
・自分の身体のことを知る ・自分の身体をしっかりと動かし、運動することの楽しさや心地よさを感じることができる。 ・グループで協力して考え、積極的に動くことができる。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	ガイダンス		授業についての説明、ストレッチ、マッサージ		
2	屋外での運動①		おにごっこ、ドッジボール、だるまさんがころんだなど		
3	グループでおもちゃ作り①		運動遊びができるおもちゃをグループで考える		
4	グループでおもちゃ作り②		運動遊びができるおもちゃをグループで製作する		
5	グループでおもちゃ作り③		運動遊びができるおもちゃをグループで製作し、遊んでみる		
6	ダンスの基本動作、個人でダンスを考える		幼児が出来るようなダンスの基本的な動きを知る、課題曲のダンスを考える		
7	個人でダンスを考える、発表する		課題曲のダンスを考える、発表する		
8	グループでダンスを考える①		グループでダンスの振り付けの相談、練習		
9	グループでダンスを考える②		グループでダンスの振り付けの相談、練習		
10	グループでダンスを考える③		グループでダンスの振り付けの相談、練習		
11	グループでダンスを考える④		グループでダンスの振り付けの相談、練習		
12	ダンスの発表		各グループで考えたダンスの発表		
13	屋外での運動②		土手を走る		
14	屋外での運動③		なわとび、おにごっこなど		
15	屋外での運動④		うまとび、サッカーなど		
【成績評価の方法と基準】					
表現技術70点、受講態度・提出物30点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
特になし					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					
実技授業のため、原則見学はできません。体調管理をしっかりとってください。体操服、運動靴、筆記用具を準備してください。					

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	1年 後期	教養科目	必修	2単位 30時間	授業形態(講義)
科目名	国語教養	担 当	富成 碩甫		
【授業の概要】					
(1)保育専門職として必要な文章を読み解く能力を養う。 (2)保育専門職として必要な文章を書く能力を養う。 (3)保育専門職として必要な話す・聞く能力を養う。 (4)保育専門職として必要な知識・教養を身に付けさせる。					
【授業の到達目標】					
(1)保育専門職として必要な国語の基本的な知識・技術を身に付けることを目標とする。 (2)保育専門職として必要な国語の基本的な知識・技術を実践する力を養うことを目標とする。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	三段構成の文章の読み方と書き方		文章の基本的な型としての三段構成による文章の読み方書き方を理解する。		
2	四段構成の文章の読み方と書き方		文章の基本的な型としての四段構成による文章の読み方書き方を理解する。		
3	まとめ方の位置による文章の分類		意見・主張の位置による文章のまとめ方(頭括型・尾括型・双括型)を理解する。		
4	文章を書く技術		絵本・詩(詞)等の例を考えながら、起承転結(四段構成)の文章の運び方を理解する。		
5	文章を書く技術		起承転結で文章を書く。(1)文例を書き写す。(2)課題テーマで作文を書く。		
6	文章を書く技術		伝わりやすい文章を書くルールを理解する。		
7	文章を書く技術		伝わりやすい文章を書くルールを理解する。		
8	文章を書く技術		伝わりやすい文章を書くルールを理解する。		
9	文章を書く技術		レポート・小論文の書き方を理解する。		
10	文章を書く技術		レポートを書く。		
11	文章を書く技術		小論文を書く。		
12	敬語の使い方		敬語の基本を理解する。		
13	敬語の使い方		敬語の使い方に習熟する。		
14	実用的な文章の書き方		手紙・公用文・ビジネスメールの書き方を理解する。 手紙・公用文・ビジネスメールを書く。		
15	語彙力の養い方		保育の現場で必要な基本用語を漢字で書けるようにする。		
【成績評価の方法と基準】					
後学期定期考査(講義内容についての筆記試験・作文により評価)筆記70点、作文30点により評価する。 100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
講師作成による教材プリント					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					
令和4年度入学生から適用する新カリキュラム科目である。					

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	2年 通年(前期)	専門科目	必修	通年2単位 前期30時間	授業形態(演習)
科目名	子どもの食と栄養	担 当	谷野 真弓		
【授業の概要】					
子どもの食と栄養は、心身の健やかな発達や食生活、食習慣を形成し、生涯にわたる健康の基礎へとつながる重要な役割を持つ。健全な食生活の意義や栄養に関する基本的知識、子どもの発育・発達と食生活の関係について解説し、理解を深めさせる。					
【授業の到達目標】					
・健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を理解する。 ・子どもの発育・発達に応じた栄養と食生活について理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	子どもの健康と食生活の意義①		子どもの心身の健康と食生活		
2	子どもの健康と食生活の意義②		子どもの食生活の現状と課題、朝食欠食についての考察		
3	栄養の基本①		栄養とは、食べ物のゆくえ		
4	栄養の基本②		栄養の摂り方、子どもの栄養の特徴		
5	栄養素の種類と働き①		炭水化物・脂質の種類と働き		
6	栄養素の種類と働き②		タンパク質・ミネラルの種類と働き		
7	栄養素の種類と働き③		ビタミンの種類と働き、水分代謝		
8	日本人の食生活の目標		日本人の食事摂取基準(2020年版)、食事バランスガイドによる食生活自己診断		
9	献立作成・調理の基本		献立作成 の基本、1日分の献立作成		
10	乳児期の授乳の意義と食生活①		乳児期の栄養・食生活の特徴		
11	乳児期の授乳の意義と食生活②		母乳栄養、人工栄養、混合栄養、母乳育児の留意点		
12	乳児期の離乳の意義と食生活①		離乳の定義と必要性、離乳食の進め方①		
13	乳児期の離乳の意義と食生活②		離乳食の進め方②、離乳期の食生活の問題と対応		
14	幼児期の心身の発達と食生活①		幼児期の成長と発達、幼児期の栄養		
15	幼児期の心身の発達と食生活②		幼児期の食の問題と気になる食行動		
【成績評価の方法と基準】					
前学期定期考査60点、授業態度25点、課題15点により評価する。前学期・後学期の成績を平均し、通年で評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
児童育成協会(監)堤ちはる・藤澤由美子(編)『新・基本保育シリーズ⑫ 子どもの食と栄養』中央法規、2019					
【参考書】					
随時指示する					
【備 考】					

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	2年 前期	専門科目	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	保育内容総論	担 当	沖田 由紀子 (実務経験者)		
			保育所に保育士並びに所長として勤務		
【授業の概要】					
主体的かつ意欲的に学べるように演習ワークを取り入れ、学生同士の意見交換を通して保育の楽しさや奥深さを体験できるようにする。さらに、保育者として必要な基礎知識を習得し、自ら考え、保育の全体的な構造を理解するとともに、保育実践構想力を高めていく。					
【授業の到達目標】					
・「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育内容」の関連を理解する。 ・保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 ・保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程につなげて理解する。 ・保育の多様な展開について具体的に理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	「保育内容総論」とは何か -保育の構想と循環性-		5領域が相互に関連しあい総合的に展開される保育の営みの理解		
2	保育内容の歴史的変遷		保育内容や保育制度の歴史的変遷を概観、「領域」の変遷		
3	保育所保育指針の法的根拠・改定の経緯		保育指針の改善事項、全体的計画の意義・実施、評価・改善		
4	子どもと保育内容 -子ども理解-		子どもの心の奥を探り、よりよく理解する保育者のあり方		
5	子どもの発達と生活		子どもの生活を支え、育ちを援助する保育者のあり方		
6	子どもを取り巻く環境や子どもの遊び		様々な魅力的な環境に関わることから生まれる遊びの充実		
7	「健康」と保育内容		乳幼児期の子どもにふさわしい「健康」の保育内容		
8	「環境」「人間関係」と保育内容		子どもの人間関係を支え、環境を構成する保育者の役割		
9	「言葉」「表現」と保育内容		「言葉」「表現」のねらい		
10	保育者の専門性、保育内容の総合的展開		専門性6項目について、保育の総合的展開・養護と教育の一体性		
11	育みたい資質・能力、「10の姿」		保育内容と保育の目指す方向性		
12	保育者の役割 -気になる子どもの支援-		具体的な事例をもとに考え合う		
13	保育者の役割 -保護者との連携-		どのような配慮が必要か考え合う		
14	保育者の役割 -幼保小連携-		保育者の役割について考え合う		
15	保育者の役割 -家庭・地域・関係機関との連携-		連携の意義と保育者の役割		
【成績評価の方法と基準】					
前学期定期考査70点、課題の提出10点、授業への積極的な取り組み20点により評価する。 100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満: Dとする。					
【テキスト】					
酒井幸子・守巧(編)神長美津子他(著)『演習 保育内容総論 あなたならどうしますか?』萌文書林、2018 厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	2年 前期	専門科目	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	保育内容総論	担 当	沖田 由紀子 (実務経験者)		
			保育所に保育士並びに所長として勤務		
【授業の概要】					
主体的かつ意欲的に学べるように演習ワークを取り入れ、学生同士の意見交換を通して保育の楽しさや奥深さを体験できるようにする。さらに、保育者として必要な基礎知識を習得し、自ら考え、保育の全体的な構造を理解するとともに、保育実践構想力を高めていく。					
【授業の到達目標】					
・「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育内容」の関連を理解する。 ・保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 ・保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程につなげて理解する。 ・保育の多様な展開について具体的に理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	「保育内容総論」とは何か -保育の構想と循環性-		5領域が相互に関連しあい総合的に展開される保育の営みの理解		
2	保育内容の歴史の変遷		保育内容や保育制度の歴史の変遷を概観、「領域」の変遷		
3	保育所保育指針の法的根拠・改定の経緯		保育指針の改善事項、全体的計画の意義・実施、評価・改善		
4	子どもと保育内容 -子ども理解-		子どもの心の奥を探り、よりよく理解する保育者のあり方		
5	子どもの発達と生活		子どもの生活を支え、育ちを援助する保育者のあり方		
6	子どもを取り巻く環境や子どもの遊び		様々な魅力的な環境に関わることから生まれる遊びの充実		
7	「健康」と保育内容		乳幼児期の子どもにふさわしい「健康」の保育内容		
8	「環境」「人間関係」と保育内容		子どもの人間関係を支え、環境を構成する保育者の役割		
9	「言葉」「表現」と保育内容		「言葉」「表現」のねらい		
10	保育者の専門性、保育内容の総合的展開		専門性6項目について、保育の総合的展開・養護と教育の一体性		
11	育みたい資質・能力、「10の姿」		保育内容と保育の目指す方向性		
12	保育者の役割 -気になる子どもの支援-		具体的な事例をもとに考え合う		
13	保育者の役割 -保護者との連携-		どのような配慮が必要か考え合う		
14	保育者の役割 -幼保小連携-		保育者の役割について考え合う		
15	保育者の役割 -家庭・地域・関係機関との連携-		連携の意義と保育者の役割		
【成績評価の方法と基準】					
前学期定期考査70点、課題の提出10点、授業への積極的な取り組み20点により評価する。 100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満: Dとする。					
【テキスト】					
酒井幸子・守巧(編)神長美津子他(著)『演習 保育内容総論 あなたならどうしますか?』萌文書林、2018 厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	2年 前期	専門科目	選択	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	保育内容(人間関係Ⅱ)	担 当	沖田 由紀子 (実務経験者)		
			保育所に保育士及び所長として勤務		
【授業の概要】					
「自立心を育て、人と関わる力の基礎を培う」ための保育士の援助や関わりについて理解を深める。また、具体的な保育実践を想定した指導計画作成・省察・評価等をグループワークを通して学び合うことにより保育構想力の向上をはかる。					
【授業の到達目標】					
・領域「人間関係」のねらい及び内容、内容の取扱いを理解する。 ・個と集団の育ち、自立心・協同性・道徳性の芽生え等の視点から、人と関わる力の基礎を培う援助のあり方を理解する。 ・具体的な保育場面を想定した指導計画の作成、実践・省察・評価・改善の実践について理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	人との関わりに関する領域「人間関係」①		3歳未満児のねらいや内容、内容の取扱いの理解		
2	人との関わりに関する領域「人間関係」②		3歳以上児のねらいや内容、内容の取扱いの理解		
3	個と集団の育ち 全体への目配りと個との関わり		集団で遊ぶ楽しさ、協働性を育む保育		
4	愛着関係の形成について		人との関わりの基盤と愛着関係形成の重要性についての理解		
5	協同性の育ち		協同性とはどのような姿か、保育者の援助の在り方について事例(DVD)を視聴しながら学ぶ		
6	自立心の育ち		自立心と依存、自立心を育む保育のあり方の理解		
7	道徳性・規範意識の育ち		「道徳性の芽生え」の理解と保育者の関わりの重要性		
8	指導計画作成① グループワーク		「ルールのある遊び」の保育指導案作成		
9	指導計画作成② グループワーク		「ルールのある遊び」の保育指導案作成		
10	指導計画作成③ グループワーク		「ルールのある遊び」の保育指導案作成		
11	指導計画に基づくグループごとの保育実践①		実践・省察・評価・改善①		
12	指導計画に基づくグループごとの保育実践②		実践・省察・評価・改善②		
13	指導計画に基づくグループごとの保育実践③		実践・省察・評価・改善③		
14	現代社会と人との関わり①		ICTと幼児期の人間関係、親の生き方の変化と親子の関わりについて		
15	現代社会と人との関わり②		人との豊かな関わりを育む乳幼児期の保育・教育のあり方		
【成績評価の方法と基準】					
前学期定期考査70点、授業態度20点、課題10点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D					
【テキスト】					
無藤隆(監)岩立京子(編)『事例で学ぶ保育内容 領域 人間関係Ⅱ』萌文書林、2018 厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【参考書】					
随時指示する					
【備 考】					
乳幼児期の子どもの発達や遊びの状況などに関心を持ち、情報の収集に努めましょう。					

シ ラ バ ス

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	2年 前期	専門科目	選択	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	保育内容(人間関係Ⅱ)	担 当	沖田 由紀子 (実務経験者)		
			保育所に保育士及び所長として勤務		
【授業の概要】					
「自立心を育て、人と関わる力の基礎を培う」ための保育士の援助や関わりについて理解を深める。また、具体的な保育実践を想定した指導計画作成・省察・評価等をグループワークを通して学び合うことにより保育構想力の向上をはかる。					
【授業の到達目標】					
・領域「人間関係」のねらい及び内容、内容の取扱いを理解する。 ・個と集団の育ち、自立心・協同性・道徳性の芽生え等の視点から、人と関わる力の基礎を培う援助のあり方を理解する。 ・具体的な保育場面を想定した指導計画の作成、実践・省察・評価・改善の実践について理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	人との関わりに関する領域「人間関係」①		3歳未満児のねらいや内容、内容の取扱いの理解		
2	人との関わりに関する領域「人間関係」②		3歳以上児のねらいや内容、内容の取扱いの理解		
3	個と集団の育ち 全体への目配りと個との関わり		集団で遊ぶ楽しさ、協働性を育む保育		
4	愛着関係の形成について		人との関わりの基盤と愛着関係形成の重要性についての理解		
5	協同性の育ち		協同性とはどのような姿か、保育者の援助の在り方について事例(DVD)を視聴しながら学ぶ		
6	自立心の育ち		自立心と依存、自立心を育む保育のあり方の理解		
7	道徳性・規範意識の育ち		「道徳性の芽生え」の理解と保育者の関わりの重要性		
8	指導計画作成① グループワーク		「ルールのある遊び」の保育指導案作成		
9	指導計画作成② グループワーク		「ルールのある遊び」の保育指導案作成		
10	指導計画作成③ グループワーク		「ルールのある遊び」の保育指導案作成		
11	指導計画に基づくグループごとの保育実践①		実践・省察・評価・改善①		
12	指導計画に基づくグループごとの保育実践②		実践・省察・評価・改善②		
13	指導計画に基づくグループごとの保育実践③		実践・省察・評価・改善③		
14	現代社会と人との関わり①		ICTと幼児期の人間関係、親の生き方の変化と親子の関わりについて		
15	現代社会と人との関わり②		人との豊かな関わりを育む乳幼児期の保育・教育のあり方		
【成績評価の方法と基準】					
前学期定期考査70点、授業態度20点、課題10点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D					
【テキスト】					
無藤隆(監)岩立京子(編)『事例で学ぶ保育内容 領域 人間関係Ⅱ』萌文書林、2018 厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【参考書】					
随時指示する					
【備 考】					
乳幼児期の子どもの発達や遊びの状況などに関心を持ち、情報の収集に努めましょう。					

シ ラ バ ス

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	2年 前期	専門科目	選択	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	保育内容(言葉Ⅱ)	担 当	梶原 礼 (実務経験者)		
			幼稚園に教諭として勤務		
【授業の概要】					
子どもの言葉の発達過程を理解させるとともに、領域「言葉」の指導の具体的内容や方法、保育者の役割等について教授する。					
【授業の到達目標】					
・子どもを取り巻く言葉の世界について理解する。 ・乳幼児の言葉の発達を育むための望ましい指導方法を身につける。 ・実践を通し、表現力や創造力を育てる方法を身につける。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	言葉を育てる児童文化財①		保育における児童文化財の活用		
2	言葉を育てる児童文化財②		子どもが楽しむ絵本、オリジナル絵本づくりについて		
3	言葉を育てる児童文化財③		指導計画と指導の実際、言葉遊び		
4	保育活動と言葉①		保育者の言葉、指導案検討		
5	保育活動と言葉②		言葉かけを中心としての援助と関わり		
6	オリジナル絵本づくり①		絵本づくり①		
7	オリジナル絵本づくり②		絵本づくり②		
8	オリジナル絵本づくり③		絵本づくり③		
9	オリジナル絵本づくり④		絵本づくり④		
10	指導案による部分実習の実際①		指導案に基づく実践、意見交換、指導案改善①		
11	指導案による部分実習の実際②		指導案に基づく実践、意見交換、指導案改善②		
12	指導案による部分実習の実際③		指導案に基づく実践、意見交換、指導案改善③		
13	指導案による部分実習の実際④		指導案に基づく実践、意見交換、指導案改善④		
14	子どもの生活と言葉①		自分の考えや思いを伝える言葉		
15	子どもの生活と言葉②、まとめ		感情体験と言葉、オリジナル絵本発表、まとめ		
【成績評価の方法と基準】					
前学期定期考査50点、作品・課題提出25点、実践・受講姿勢25点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
数中征世・玉瀬友美・星野美穂子(編)『新版 保育内容・言葉 -乳幼児のことばを育む-』教育出版、2017 厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					

シ ラ バ ス

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	2年 前期	専門科目	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	身体表現Ⅰ	担 当	工藤 冨		
【授業の概要】					
自分が感じたままに身体全体を使って表現し、仲間の表現に共感でき、保育者としての視点を持つことが出来るよう教授する。また、仲間同士で考えを出し合い、工夫して表現ができるようにしていく。					
【授業の到達目標】					
・感じたことを恥ずかしがらずに表現できるようになる。 ・仲間の表現を受け止め、共感できるようになる。 ・コミュニケーションをとりながら、考えを出し合ったりまとめたりすることができる。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	ガイダンス		ガイダンス、ストレッチ、ふれあい遊び		
2	手遊び・歌遊びから身体表現あそび		手遊び・歌遊びを身体で表現する		
3	身近なものを使った表現あそび		新聞紙などを使って表現する		
4	身近なものを身体で表現		動物の動きや植物の成長などを自分の身体で表現する		
5	音を身体で表現		風の音などを聞いて自分なりに身体で表現する		
6	日常生活を身体で表現		日常の生活を振り返り、身体全体を使って表現をする		
7	グループで身体表現あそびの教材を考える①		グループ分け、遊びを考える		
8	グループで身体表現あそびの教材を考える②		グループで遊びを考える		
9	グループで身体表現あそびの教材を考える③		グループで遊びを考える		
10	グループで身体表現あそびの教材を考える④		グループで遊びを考える		
11	グループで身体表現あそびの教材を考える⑤		グループで遊びを考える		
12	グループで考えたあそびの発表		グループで考えたあそびを発表する		
13	発表したあそびの反省・改良		それぞれのグループで反省・改良		
14	全体での反省		それぞれ発表したあそびを全体で考える		
15	まとめ		まとめ、各自の感想や反省		
【成績評価の方法と基準】					
技術60点、受講姿勢・提出物40点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
特になし					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					
実技授業のため、見学は原則としてできません。体調管理をしっかり行ってください。また、体操服・運動靴・筆記用具を準備してください。					

基本情報	2年 前期	専門科目	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	音楽Ⅱ	担 当	渡邊 砂子		
【授業の概要】					
音楽や歌唱の基礎技術を学び、保育者に求められる音楽表現技術を教授する。					
【授業の到達目標】					
・保育者に求められる音楽の基礎知識を理解する。 ・子どもの豊かな音楽表現のため、保育者として歌唱表現を工夫することができる。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	和音と伴奏①		主要三和音の伴奏パターンの工夫		
2	和音と伴奏②		コードネームによる伴奏		
3	和音と伴奏③		いろいろな調への移調		
4	リズム表現①		クラッピング(手拍子)によるアンサンブル		
5	リズム表現2		クラッピング(手拍子)によるアンサンブル		
6	リズム表現③		クラッピング(手拍子)によるアンサンブル		
7	歌唱表現の工夫①		子どもの歌の表現指導の指導案作成		
8	歌唱表現の工夫②		子どもの歌の表現指導の実践発表		
9	歌唱表現の工夫③		子どもの歌の表現指導の実践発表		
10	歌唱表現の工夫④		子どもの歌の表現指導の実践発表		
11	合唱表現の工夫①		美しいハーモニーの工夫①		
12	合唱表現の工夫②		美しいハーモニーの工夫②		
13	合唱表現の工夫③		美しいハーモニーの工夫③		
14	合唱表現の工夫④		美しいハーモニーの工夫④		
15	合唱表現の工夫⑤		美しいハーモニーの工夫⑤		
【成績評価の方法と基準】					
授業中の実技評価、課題の提出等70点、受講姿勢30点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評価は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
荒井弘高・中尾かつ江・三沢大樹(編著)『歌唱の基礎』主文社、2017 鈴木恵津子・富田英也(監修・編著)『改訂・ポケットいっぱいのうた』教育芸術社、2017					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					

シ ラ バ ス

令和5年度

智泉保育専門学校

基本情報	2年 前期	専門科目	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	造形表現Ⅱ	担 当	工藤 祐子		
【授業の概要】					
ワークシートによる演習をととして、造形表現の指導に必要な資質や能力を身に付けさせる。また、子どもの描画理解を深めさせ、発達段階に応じた造形指導ができるよう教授する。					
【授業の到達目標】					
・保育所保育指針の内容や造形指導に関する事項を演習を通して理解する。 ・表現及び鑑賞の発達段階及び幼児期の個性的表現を理解する。 ・表現及び鑑賞の経験から知識・技能・発想・構想力を養う。 ・保育の造形指導にふさわしい教材や指導方法を研究することができる。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	ガイダンス		授業内容を知る。		
2	張り子のお面作り①		柔軟な発想力を鍛える。アイデアスケッチを描き構想を練る。風船に紙を貼る。		
3	張り子のお面作り②		風船をわり、紙の型をはがす。パーツを作り、土台のお面と組み合わせる。		
4	張り子のお面作り③		色を塗り、完成したらニスを塗る。お互いに鑑賞し、良い点を文章で表す。		
5	おもちゃの研究①		身の回りのものを材料にその特徴を生かしたおもちゃのアイデアを考える。		
6	おもちゃの研究②		材料の特徴を生かして制作する。		
7	おもちゃの研究③		鑑賞し合いながら、みんなのおもちゃで遊ぶ。		
8	お弁当を作ろう①		各粘土の特性を知る。アイデアスケッチを描き、紙粘土でパーツを作る。		
9	お弁当を作ろう②		紙粘土でパーツを作る。		
10	お弁当を作ろう③		紙粘土でパーツを作り、お弁当に詰める。		
11	お弁当を作ろう④		紙粘土でパーツを作り、お弁当に詰める。完成作品の写真撮影をする。お互いの作品を鑑賞する。		
12	Happyポップアップカードの制作①		贈る相手と伝えたい内容を想定し、アイデアスケッチを描く。		
13	Happyポップアップカードの制作②		飛び出す仕組みを理解し、構想を練り、制作する。		
14	Happyポップアップカードの制作③		完成したカードをみんなで鑑賞しお互いの作品の良さを味わう。		
15	造形ノートのまとめ		課題ごとに造形ノートにまとめ、自己評価票を記入する。		
【成績評価の方法と基準】					
演習作品70点、授業への取り組み(関心、意欲、態度)や「造形ノート」(授業での演習作品の評価、学習内容の記録、考察、鑑賞)30点により評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
北沢 昌代・畠山 智宏・中村 光絵(著)『子どもの造形表現 第2版 ワークシートで学ぶ』開成出版、2019					
【参考書】					
厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【備 考】					
事前に必要な用具や準備物を連絡するので忘れないように注意する。					

シ ラ バ ス

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	2年 前期	専門科目	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	器楽Ⅲ	担 当	関 純子 米田 昌子 田北 嘉奈子 安部 千鶴		
【授業の概要】					
保育に必要な音楽教育のために、テキスト教材を使った個人授業を行い、ピアノの演奏技術を教授する。					
【授業の到達目標】					
・1年次に学んだ内容を基礎に保育者に求められるピアノの演奏形態と音楽表現の基礎を身に付ける。 ・子どもの歌を曲の表情に合わせて表現する力を身に付ける。 ・マーチやスキップなど、子どもの動きに合わせて演奏する力を身に付ける。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	ト長調の音階、「うみ」		音階の流れと運指(ファ#)、ト長調の曲 情景を思い浮かべて歌おう、3拍子の曲		
2	33番、「うみ」		ト長調の和音Ⅰ、Ⅴ おおらかに歌う工夫、ディナーミクを表現に効果的なブレス		
3	33番、36番、「おつかいありさん」		ト長調の和音Ⅴ7 スタッカートでフォルテの音、付点のリズム		
4	36番、46番、「おつかいありさん」「とんぼのめがね」		ト長調の和音Ⅳ 1部形式の曲、山を感じて歌う		
5	46番、65番「とんぼのめがね」「どんぐりころころ」		非和声音について、2部形式について ハ長調の音階、オクターブ、3度の和音の移動		
6	65番、67番「どんぐりころころ」「春が来た」		流れるような3拍子のメロディ お話になっている歌を感じて歌う		
7	65番、67番「春がきた」「思い出のアルバム」		フレーズの中の山を感じる、ドルチェ 情景を思い浮かべて歌う、アルベルティのバス		
8	67番、70番「思い出のアルバム」「イルカはざんぷらこ」		流れるような6拍子のメロディ、ディナーミク 安定した左手の伴奏、アンダンテ		
9	70番、71番「思い出のアルバム」「大きな古時計」		1拍の中に入る8分音符、16分音符 アウフタクトの曲、時計の刻みを感じて		
10	71番、72番「大きな古時計」「手のひらを太陽に」		効果的なアクセント、ピアノシモ、ト長調の音階と運指 付点の持つ軽やかなリズム		
11	72番、103番「大きな古時計」「手のひらを太陽に」		付点八分音符、左手保持音 シンコペーションとアクセント		
12	72番、103番「手のひらを太陽に」「にじ」		16分音符の長いパッセージ 付点と3連符、タイ、フェルマータ、優しい気持ちで歌う		
13	103番「にじ」		メヌエットについて		
14	教本、弾き歌い		試験の課題曲を中心に前期学んだ内容の振り返り		
15	前学期の課題の復習・まとめ		課題曲で行う実技試験		
【成績評価の方法と基準】					
課題曲で行う実技試験70点、授業時の実技評価及び受講姿勢30点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
大学音楽教育研究グループ(編著)『教職課程のための大学ピアノ教本 バイエルとツェルニーによる展開』教育芸術社 2014 鈴木恵津子・富田英也(監修・編著)『改訂ポケットいっぱいのうた 実践こどものうた 簡単に弾ける144選』教育芸術社 2017					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					

シ ラ バ ス

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	2年 前期	専門科目	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	子どもの健康と安全	担 当	片倉 孝子 (実務経験者)		
			病院に看護師として勤務		
【授業の概要】					
演習・実技・グループワーク等による授業を展開し、子どもの保健に関する知識と技術の実践力の向上を図るとともに、子どもの健康と生命を守る保育者としての責任の自覚及び保育観の形成を教授する。					
【授業の到達目標】					
・ 保育における保健的観点、保育環境、援助について理解する。 ・ 子どもの感染対策と適切な対応を理解する。 ・ 子どものアレルギー対応・事故対応を理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	保育における保育環境の援助		保健的観点を踏まえた援助の理解 物的・人的環境についてグループワーク・感染症(コロナ)注意事項		
2	子どもの保健に関する個別対応		子どもの症状の観察ポイントを抽出しグループワーク		
3	保育における衛生管理		子どもの望ましい衛生環境について		
4	保育における事故防止及び安全対策		保育施設での事故対応・ガイドライン		
5	災害への備えと危機管理		災害対策と危機管理・ハザードマップ等も参考		
6	子どもの体調不良 障害時の対応		子どもの特徴・疾患・バイタルサイン等の確認(実技)		
7	救急処置・救急蘇生法		けがへの対応・応急処置(ファーストエイド)(実技)		
8	感染症の集団発生と予防・対応		スタンダードプリコーションの理解(感染防御用具の作製)		
9	保育における保健的対応		個別的対応を要する子どもへの対応・与薬方法		
10	3歳児未満児への適切な対応		3歳未満児の特徴と留意点		
11	個別的配慮を必要とする子どもへの対応		慢性疾患・アレルギーのある子どもへの配慮と留意点「エピペン取扱い等」		
12	障害児への対応		障害の理解・医療的ケアの理解		
13	職員間の連携・協働・組織的取り組み		組織内での報告・連絡・相談		
14	保育における保健計画及び評価		子どもの「身長・頭囲・胸囲」の計測(実技)		
15	子どもを中心とした家庭・専門機関・地域との連携		子育て支援と地域連携・医療的ケア児の支援について		
【成績評価の方法と基準】					
前学期定期考査80点、授業態度20点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
児童育成協会(監)松田博雄・金森三枝(編)『新・基本保育シリーズ⑯ 子どもの健康と安全』中央法規、2019					
【参考書】					
赤ちゃんの最新病気新百科・育児の基本辞典その他必要に応じ紹介する					
【備 考】					
コロナ感染状況を踏まえ・グループワーク・実技等の実施は状況に応じて実施する					

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	2年 通年(前期)	専門科目	必修	通年2単位 前期30時間	授業形態(演習)
科目名	障害児保育	担 当	安 東 和子		
【授業の概要】					
保育現場における特別な配慮の必要な子どもへの理解について、講義や演習、協議等をとおして子ども達の障害の状態や発達段階、特性を理解させ、保育の指導における基礎・基本の知識について教授する。また、家庭や関係機関との連携を図りながら、小学校への就学に向けた見通しのある保育の必要性について考えを深めさせる。					
【授業の到達目標】					
1 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。 2 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。 3 障害児その他の特別な配慮を必要とする子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。 4 障害児その他の特別な配慮を必要とする子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。 5 障害児その他の特別な配慮を必要とする子どもの保育に関する現状と課題について理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	「障害」の概念と障害児保育の歴史的変遷		「障害」の概念や法制度等の歴史的変遷を学び、障害児保育の現状と課題を理解する。		
2	地域社会への参加・包容および合理的配慮の理解①		地域社会への参加・包容の重要性について学び、社会的障壁と合理的配慮について理解する。		
3	地域社会への参加・包容および合理的配慮の理解②		インクルーシブ保育の基本となる合理的配慮の視点を学ぶ。		
4	肢体不自由児の理解と援助①		肢体不自由児の保育に必要な知識について学ぶこととおして、その臨床像、起因疾患、心理特性を理解する。		
5	肢体不自由児の理解と援助②		肢体不自由の体験演習をとおして実態把握の視点を学ぶとともに他機関との連携、教育の動向を理解する。		
6	知的障害児の理解と援助①		知的障害の障害の状態、特性、援助の観点、医療と福祉等関係機関との連携について理解する。		
7	知的障害児の理解と援助②		知的障害特別支援学校の見学をとおして、知的障害のある児童生徒の「生きる力」を育む特別支援教育の内容や「就労」に向けた支援を具体的に学ぶ。		
8	知的障害児の理解と援助②				
9	視覚・聴覚・言語障害児の理解と援助①		視覚・聴覚障害・言語障害のそれぞれの特性や援助の視点を学ぶ。		
10	視覚・聴覚・言語障害児の理解と援助②		障害体験や演習をとおして、障害への理解を深め、保育における課題について理解する。		
11	発達障害児の理解と援助(ADHD、LD、ASD)①		ADHD、LD、ASDのある子どもの特性とその特徴とその対応について理解する。		
12	発達障害児の理解と援助(ADHD、LD、ASD)②		ADHD、LD、ASDのある子どもの特性に基づく保育と、二次障害の予防について理解する。		
13	重症心身障害児、医療的ケア児、その他の特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助①		重症心身障害児、医療的ケア児の多様化の現状と愛着障害について学ぶ。		
14	重症心身障害児、医療的ケア児、その他の特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助②		重症心身障害児や医療的ケア児等の子どもの代替コミュニケーションと心理的反応について理解する。		
15	指導計画及び個別の支援計画の作成①		個別の支援計画や指導計画の作成の手順、記載項目や内容を理解する。		
【成績評価の方法と基準】					
前学期定期考査50点、課題提出・配布資料の整理40点、受講態度10点 前学期・後学期の成績を平均し、通年で評価。 100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
児童育成協会(監)西村重稀・水田敏郎(編)『新基本保育シリーズ⑪ 障害児保育』中央法規、2019					
【参考書】					
厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【備 考】					
特別支援学校の見学を行う予定。					

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	2年 前期	専門科目	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	社会的養護Ⅱ	担 当	安東 和子		
【授業の概要】					
社会的養護の施設で生活する子どもたちの背景と自立に向けた支援、家庭への支援について講義や演習をとおして、理解を深めさせるとともに、児童の権利擁護の現状と課題、制度・施策等、社会的養護のもとで生活する子どもへ携わる保育士としての専門性の向上を図る。					
【授業の到達目標】					
・こどもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。 ・社会的養護、家庭養護の実際について理解する。 ・社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。 ・社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。 ・社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	子どもの権利擁護		子どもの権利擁護の基本を学び、子どもの権利擁護に対する取り組み・支援について学ぶ。		
2	社会的養護における子どもの理解		子ども理解の方法について学ぶとともに、社会的養護のもとで生活することもや家庭環境について理解を深める。		
3	社会的養護の内容① 日常生活支援		日常生活支援の内容について学び、日常生活の特徴に関する理解をさらに深めるとともに支援の在り方について考える。		
4	社会的養護の内容② 心理的支援		心理的支援についてその目的と特徴、心的支援を考える視点、実際を演習・事例をとおして学ぶ。		
5	社会的養護の内容③ 自立支援		社会的養護から巣立つ子どもの自立支援について、事例や協議をとおして考え、学ぶ。		
6	施設養護の生活特性及び実際① 乳児院等		乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設での支援の対象や生活特性について協議等をとおして理解する。		
7	施設養護の生活特性及び実際② 障害児施設等		児童心理治療施設、児童自立支援施設、障害児施設での支援の対象や生活特性について協議等をとおして理解する。		
8	家庭養護の生活特性及び実際		養育里親や養子縁組など家庭養護の意義と課題について演習をとおして学び、保育者に求められる役割を理解する。		
9	アセスメントと個別支援計画の作成		自立支援計画作成の手順と内容について学び、社会的養護における子どもの自立への理解を深める。		
10	記録および自己評価		社会的養護における記録の意義や役割、自己評価を学ぶとともに、個人情報やプライバシー保護と記録等を学ぶ。		
11	社会的養護における保育の専門性に関わる知識・技術とその実際		社会的養護では保育の専門性が必要なことを確認するとともに、被虐待や問題行動のある子どもへの対応を学ぶ。		
12	社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実際		社会的養護におけるソーシャルワークについて理解するとともに、その知識や視点をもった対応の方法を学ぶ。		
13	社会的養護におけるソーシャルワーク(知識・技術とその応用)		社会的養護におけるソーシャルワークの意味や知識・技術について理解する。		
14	社会的養護における家庭支援		社会的養護における家庭支援の内容、支援について学び、家庭支援の今後について、考えを深める。		
15	今後の社会的養護の課題と展望		「社会的養護の課題と将来像」等の報告を理解するとともに、社会的養護の今後の在り方について考える。		
【成績評価の方法と基準】					
前学期定期考査50点、課題レポート40点、受講態度10点の100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
児童育成協会(監)相澤仁・村井美紀・大竹智(編)『新基本保育シリーズ⑩社会的養護Ⅱ』中央法規、2019					
【参考書】					
【備 考】					

シ ラ パ ス

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	2年 前期	専門科目	選択必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	保育実習指導Ⅱ(保育所)	担 当	沖田 由紀子(実務経験者)	渡邊 砂子	佐藤みつよ(実務経験者)
			保育士並びに保育所長として勤務		幼稚園に教諭として勤務
【授業の概要】					
保育実習Ⅰの経験や学びを活かして、保育所保育の基本、園児の実態に応じた保育士の援助や環境構成の在り方、立案・実践の方法などを総合的に理解できるようにする。また、実習終了後に本実習を振り返ると同時に、2年間の実習成果と自己課題を認識できるようにしていく。					
【授業の到達目標】					
・保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解するとともに、保育の実践力を習得する。 ・保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 ・保育士の専門性と職業倫理について理解する。 ・実習の事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	保育実習ⅠAの反省会		保育実習ⅠAの自己課題の明確化、意見交換及び学び合い		
2	保育実習Ⅱの目的と概要、実習園の決定		保育実習Ⅱの意義や目的の確認、実習園への依頼電話、プロフィール作成、模擬保育(20分程度)の指導案作成		
3	模擬保育の指導案討議 ①		模擬保育の指導案構想の発表及び討議・改善 ①		
4	模擬保育の指導案討議 ②		模擬保育の指導案構想の発表及び討議・改善 ②		
5	模擬保育実践及び意見交換会 ①		模擬保育の実践・評価・省察・改善 ①		
6	模擬保育実践及び意見交換会 ②		模擬保育の実践・評価・省察・改善 ②		
7	模擬保育実践及び意見交換会 ③		模擬保育の実践・評価・省察・改善 ③		
8	模擬保育実践、意見交換会 ④ 実習園事前オリエンテーションに向けて		模擬保育の実践・評価・省察・改善 ④ 実習園持参書類準備		
9	模擬保育実践及び意見交換会 ⑤		模擬保育の実践・評価・省察・改善 ⑤		
10	模擬保育実践及び意見交換会 ⑥		模擬保育の実践・評価・省察・改善 ⑥		
11	保育所保育の役割と機能、専門職としての倫理 部分実習の指導案の作成		保育の目標・保育の方法・保育所の特性・社会的責任・職業倫理等についての確認、部分実習(40分程度)の指導案作成		
12	部分実習の指導案討議 ①		部分実習の指導案構想の発表及び討議・改善 ①		
13	部分実習の指導案討議 ②		部分実習の指導案構想の発表及び討議・改善 ②		
14	保育実習Ⅱに向けて(心構え、実習日誌の書き方)		保育実習の心構えと準備 実習日誌の書き方の確認及びファイル作成		
15	保育実習Ⅱの事後指導		実習報告会、自己課題の明確化と卒業までの学習計画		
【成績評価の方法と基準】					
模擬保育(指導案・実践の振り返り等)50点、受講姿勢30点、課題提出(プロフィール・その他の提出物)20点により評価する。 100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	2年 前期	専門科目	選択必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	保育実習指導Ⅲ(施設)	担 当	安東 和子 梶原 礼(実務経験者) 工藤 冨		
			幼稚園に教諭として勤務		
【授業の概要】					
保育実習ⅠB(施設)を振り返り、今後実施予定の保育実習Ⅲに向けた一人一人の実習への課題を明らかにし、準備させる。また、施設での実習の経験を生かし、福祉援助の内容や方法等について理解を深め、実践力を養う。実習後には、総括と自己評価を行い、施設保育士としての課題や認識を深め、実践力の向上を図る。					
【授業の到達目標】					
・ 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 ・ 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 ・ 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 ・ 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 ・ 実習の事後指導をとおして、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	保育実習Ⅲ(施設)の意義と目的		保育実習Ⅰの実習成果と残された課題を明確にし、保育実習Ⅲの意義や目的等について理解を深める。		
2	保育実習Ⅲ(施設)に向けた自己課題		個別面談を行い、自己の学びを深め、保育実習への自己課題を明らかにする。		
3	保育実習Ⅲ(施設)の決定		保育実習Ⅲの施設を決定するとともに、施設運営の基本理念や対象児童への支援等についてまとめる。		
4	実習日誌の内容の検討・協議①		保育実習ⅠB(施設)での実習日誌の記述内容の検討を通して、よりよい実習日誌の記載について協議を行い共有する。		
5	実習日誌の内容の検討・協議②		同上		
6	実習課題について		保育実習Ⅲにおける自己課題を分析する。		
7	プロフィールの作成		プロフィールを作成し、個々の自己課題の解決を図る方策を考える。		
8	プロフィールの作成及び完成書類の準備		プロフィールの作成、事前オリエンテーションの際に確認する内容などについて確認・準備する。		
9	事前オリエンテーションの準備		実習施設への電話連絡、オリエンテーションの日時、持参書類等を確認する。		
10	行事への対応①		施設保育士の行う行事の企画・運営等について学ぶ。		
11	行事への対応②		施設保育士の行う行事の企画・運営等について学ぶ。		
12	事前オリエンテーションの報告		実習形態(宿泊、通所等)、実習施設の特徴、利用している子どもへの対応などについて整理し心構えを確認する。		
13	危機管理		事故を未然に防止するための取り組みについて事例をとおして学ぶ。		
14	保育実習Ⅲの報告		保育実習Ⅲの実習成果と課題について、発表や意見交換を行い、保育士としての職責や専門性、自己課題を明確化する。		
15	実習の総括と課題の明確化		施設保育士の専門性等について考えや意見を交換し、子どもにどのように関わっていくのか等について理解を深める。		
【成績評価の方法と基準】					
課題提出(指導案・プロフィール・その他の提出物)70点、受講態度20点、配布資料の整理10点の100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【参考書】					
【備 考】					

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	2年 前期	専門科目	選択必修	2単位 90時間	授業形態(実習)
科目名	保育実習Ⅱ(保育所)	担 当	沖田 由紀子(実務経験者) 渡邊 砂子 佐藤みつよ(実務経験者)		
			保育士並びに保育所長として勤務		幼稚園に教諭として勤務
【授業の概要】					
保育実習ⅠA(保育所)での学びを踏まえて保育所で10日間の実習を行う。指導計画に基づいた責任実習を行うことにより保育実践力を高めるとともに、保育所の役割や機能、保育士の業務内容や職業倫理等について理解を深める。					
【授業の到達目標】					
・保育所の役割や機能、保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践を通して理解する。 ・子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。 ・既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、保育及び子育て支援について総合的に理解を深める。 ・保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価について、実習を通して理解を深める。 ・実習における自己の課題を明確化する。					
【授業の計画】			【内 容】		
○ 各自が希望する保育園(所)で実習する。 ○ 実習期間は10日間 令和5年7月18日(火)～7月28日(金)			○ 保育所の役割や機能の具体的展開		
			・養護と教育が一体とな行われる保育		
			・保育所の社会的役割と責任		
			○ 観察に基づく保育の理解		
			・子どもの心身の状態や活動の観察		
			・保育士等の援助や関わり		
			○ 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価		
			・作成した指導計画に基づく保育の実践と評価		
			○ 「環境を通して行う保育」の理解		
			・「生活や遊びを通して総合的に行う保育」の理解		
			○ 子どもの保育及び保護者への支援と地域社会との連携		
			・入所児及び地域の保護者等に対する子育て支援		
			・関係機関や地域社会との連携・協働		
			○ 多様な保育の展開と保育士業務及び職業倫理の理解		
			○ 自己課題の明確化		
【成績評価の方法と基準】					
実習園の評価70点、実習日誌・感想文等の提出物30点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【参考書】					
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、2018					
【備 考】					
実習は乳幼児と共に過ごししながらその本質に触れる貴重な機会なので、意欲的・主体的に取り組む学びを深めましょう。社会人としてのマナーも注目されますので留意してください。					

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	2年 前期	専門科目	選択必修	2単位 90時間	授業形態(実習)
科目名	保育実習Ⅲ(施設)	担 当	安東 和子 梶原 礼(実務経験者) 工藤 冴		
			幼稚園に教諭として勤務		
【授業の概要】					
保育所以外の児童福祉施設での保育実習を10日間実施する。保育実習Ⅰを踏まえ、自己の実習課題を明らかにするとともに、地域における施設の役割や機能、保育士の職務内容や職業倫理等、実践にをとおして理解する。実習日誌を作成し、実習に係る自己評価と省察に取り組む。					
【授業の到達目標】					
・既習の教科目や保育実習Ⅰを踏まえ、児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践をとおして、理解する。 ・家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的保護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。 ・保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 ・実習における自己の課題を理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
① 実習期間 令和5年7月18日(火)～令和5年7月31日(月) ② 実習場所 ・児童養護施設 ・障害児入所施設 ・乳児院 ・母子生活支援施設 ・児童発達支援センター ・生活介護施設 等			1 児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能 2 施設における支援の実際 ① 受容し、共感する態度 ② 個人差や生活環境に伴う子ども(利用者)のニーズの把握と子ども理解 ③ 個別支援計画の作成と実践 ④ 子ども(利用者)の家族への支援と対応 ⑤ 各施設における多様な専門職との連携・協働 ⑥ 地域社会との連携・協働 3 保育士の多様な業務と職業倫理 4 保育士としての自己課題の明確化		
【成績評価の方法と基準】					
実習施設の指導者が評価した評価票70点、実習日誌の内容・レポート・感想文等の提出物30点の100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【参考書】					
【備 考】					

シ ラ パ ス

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	2年 通年(前期)	専門科目	必修	通年2単位 前期30時間	授業形態(演習)
科目名	保育実践演習	担 当	安東 和子		沖田 由紀子(実務経験者)
			佐藤 みつよ(実務経験者)		梶原 礼(実務経験者)
			幼稚園に教諭として勤務		保育士並びに保育所長として勤務 幼稚園に教諭として勤務
【授業の概要】					
グループワーク、ロールプレイング等の授業方法を活用し、これまでの自らの学びを振り返ったり、保育に関する現代的課題について考察したりしながら自己課題を明確にし、保育実践の基礎的な資質・能力の定着をはかる。					
【授業の到達目標】					
・保育に関する専門的知識及び技術・責任感・判断力・倫理観・社会性や対人能力等が習得されたか、自らの学びを振り返り把握する。 ・保育実習の体験や情報の収集等に基づき、保育に関する現代的課題について考察する力を習得する。 ・自己の課題を明確化し、保育実践に際して必要となる基礎的な資質・能力を身につける。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	学修(実習Ⅰを含む)の振り返りと自己課題		保育者に求められる知識・技術の6項目及び履修カルテによる自己評価を行う。		
2	自己理解と自己概念		グループワークをとおし他者と接する際の自己理解を深める。		
3	伝わる伝え方を考える① 非認知能力について		他者が理解できる情報発信を意識し、非認知能力についてまとめたものを個人発表し、振り返る。		
4	共感的理解の方法		受容や共感的理解を示す表現技法をロールプレイングをとおして学ぶ。		
5	伝わる伝え方を考える② 発達理論について		他者が理解できる情報発信を意識し、発達理論についてまとめたものを個人発表し、振り返る。		
6	こころの働きについて		認知機能や感情について理解を深める。		
7	特別な配慮を必要とする子ども理解とその対応①		発達の遅れや偏りのある子どもの行動の要因等について考察する力を身に付ける。		
8	特別な配慮を必要とする子ども理解とその対応②		不注意や多動、対人関係に課題のある子どもの行動の要因等について考察する力を身に付ける。		
9	障害のある子どもの理解①		障害のある子どもの障害の状態や発達段階、特性について理解するとともに、自立支援について理解を深める。		
10	障害のある子どもの理解②				
11	保育者の専門性を生かした保護者への支援		保護者への支援の在り方について、事例をとおして学び、支援の内容について理解を深める。		
12	障害のある子どもに係る関係機関との連携		障害のある子どもの就学に向けた関係機関との連携や関係法令について理解を深める。		
13	言葉をめぐる現代的課題		情報化社会や保・幼・小連携の中での言葉の発達について学び合う。		
14	子どもの生活と言葉		保育者の言葉と子どもの行動の関係について学ぶ。		
15	実習場面のエピソード記録		記録から保育者の援助や子どもの言動について考察する。		
【成績評価の方法と基準】					
課題の提出60点、発表やグループワーク等への積極的取り組み40点により評価する。 100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【参考書】					
数中征世・玉瀬友美・星野美穂子(編)『新版 保育内容・言葉 -乳幼児のことばを育む-』教育出版、2017 清水益治、森俊之(編)『新基本保育シリーズ⑩子どもの理解と援助』中央法規、2019					
【備 考】					
視覚・聴覚特別支援学校を見学する予定					

シ ラ パ ス

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	2年 通年(前期)	専門科目	必修	通年2単位 前期30時間	授業形態(演習)	
科目名	保育実践演習	担 当	安東 和子 佐藤 みつよ(実務経験者)		沖田 由紀子(実務経験者) 梶原 礼(実務経験者)	工藤 冴
			幼稚園に教諭として勤務			保育士並びに保育所長として勤務 幼稚園に教諭として勤務
【授業の概要】						
グループワーク、ロールプレイング等の授業方法を活用し、これまでの自らの学びを振り返ったり、保育に関する現代的課題について考察したりしながら自己課題を明確にし、保育実践の基礎的な資質・能力の定着をはかる。						
【授業の到達目標】						
・保育に関する専門的知識及び技術・責任感・判断力・倫理観・社会性や対人能力等が習得されたか、自らの学びを振り返り把握する。 ・保育実習の体験や情報の収集等に基づき、保育に関する現代的課題について考察する力を習得する。 ・自己の課題を明確化し、保育実践に際して必要となる基礎的な資質・能力を身につける。						
【授業の計画】				【内 容】		
1	学修(実習Ⅰを含む)の振り返りと自己課題			保育者に求められる知識・技術の6項目及び履修カルテによる自己評価を行う。		
2	自己理解と自己概念			グループワークをとおり他者と接する際の自己理解を深める。		
3	伝わる伝え方を考える① 非認知能力について			他者が理解できる情報発信を意識し、非認知能力についてまとめたものを個人発表し、振り返る。		
4	共感的理解の方法			受容や共感的理解を示す表現技法をロールプレイングをとおして学ぶ。		
5	伝わる伝え方を考える② 発達理論について			他者が理解できる情報発信を意識し、発達理論についてまとめたものを個人発表し、振り返る。		
6	こころの働きについて			認知機能や感情について理解を深める。		
7	発達障害のある子ども理解と対応			発達に遅れや偏りのある子どもへの対応について事例や協議をとおして学ぶ。		
8	障害のある子どもの理解①			障害のある子どもの障害の状態や発達段階等に応じた理解と対応について学ぶ。		
9	障害のある子どもの理解②					
10	保育者の専門性を生かした保護者への支援			保護者への支援の在り方について、事例をとおして学ぶ。		
11	子育て支援と虐待			虐待の現状と課題について学び保育者としての自己の役割について考えを深める。		
12	保育現場における事故防止			保育現場で起こる事故に備えるための対応について理解する。		
13	言葉をめぐる現代的課題			情報化社会や保・幼・小連携の中での言葉の発達について学び合う。		
14	子どもの生活と言葉			保育者の言葉と子どもの行動の関係について学ぶ。		
15	実習場面のエピソード記録			記録から保育者の援助や子どもの言動について考察する。		
【成績評価の方法と基準】						
課題の提出60点、発表やグループワーク等への積極的取り組み40点により評価する。 100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。						
【テキスト】						
厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018						
【参考書】						
数中征世・玉瀬友美・星野美穂子(編)『新版 保育内容・言葉 -乳幼児のことばを育む-』教育出版、2017 清水益治、森俊之(編)『新基本保育シリーズ⑩子どもの理解と援助』中央法規、2019						
【備 考】						
視覚・聴覚特別支援学校を見学する予定						

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	2年 通年(前期)	専門科目	必修	通年2単位 前期30時間	授業形態(演習)
科目名	保育実践演習	担 当			
【授業の概要】					
グループワーク、ロールプレイング等の授業方法を活用し、これまでの自らの学びを振り返ったり、保育に関する現代的課題について考察したりしながら自己課題を明確にし、保育実践の基礎的な資質・能力の定着をはかる。					
【授業の到達目標】					
・保育に関する専門的知識及び技術・責任感・判断力・倫理観・社会性や対人能力等が習得されたか、自らの学びを振り返り把握する。 ・保育実習の体験や情報の収集等に基づき、保育に関する現代的課題について考察する力を習得する。 ・自己の課題を明確化し、保育実践に際して必要となる基礎的な資質・能力を身につける。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	学修(実習Ⅰを含む)の振り返りと自己課題		保育者に求められる知識・技術の6項目の振り返り、履修カルテによる自己評価		
2	自己理解と自己概念		対人場面での自己理解		
3	伝わる伝え方を考える① 非認知能力について		他者が理解できる情報発信、非認知能力についての発表、振り返り		
4	共感的理解の方法		受容や共感的理解を示す表現技法、ロールプレイングによる応答練習		
5	伝わる伝え方を考える② 発達理論について		他者が理解できる情報発信、発達理論についての個人発表、振り返り		
6	こころの働きについて		認知機能の働き、認知バイアス、いろいろな感情		
7	発達障害のある子ども理解と対応		発達に遅れや偏りのある子どもへの対応について事例や協議をとおして学ぶ。		
8	障害のある子どもの理解①		障害のある子どもの障害の状態や発達段階等に応じた理解と対応について学ぶ。		
9	障害のある子どもの理解②				
10	保育者の専門性を生かした保護者への支援		保護者への支援の在り方について、事例をとおして学ぶ。		
11	子育て支援と虐待		虐待の現状と課題について学び保育者としての自己の役割について考えを深める。		
12	保育現場における事故防止		保育現場で起こる事故に備えるための対応について理解する。		
13	言葉をめぐる現代的課題		情報化のなかの子どもと言葉、言葉の発達と保・幼・小連携		
14	子どもの生活と言葉		保育者の言葉と子どもの行動		
15	実習場面のエピソード記録		記録から保育者の援助や子どもの言動について考察		
【成績評価の方法と基準】					
【テキスト】					
厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【参考書】					
数中征世・玉瀬友美・星野美穂子(編)『新版 保育内容・言葉 -乳幼児のことばを育む-』教育出版、2017 清水益治、森俊之(編)『新基本保育シリーズ⑩子どもの理解と援助』中央法規、2019					
【備 考】					
視覚・聴覚特別支援学校を見学する予定					

基本情報	2年 前期	教養科目	必修	2単位 30時間	授業形態(講義)
科目名	日本国憲法	担 当	織原 保尚		
【授業の概要】					
憲法は、私たち国民自身が制定する法であり、その内容について知ることは、市民として必要なことである。日本国憲法の歴史的意義を踏まえ、国民主権・基本的人権の尊重・平和主義の3つの原理及び統治機構(立法・司法・行政)の仕組みを教授するとともに、毎日のニュースと深く関係している憲法について、私たち自身の問題として関心を持つことができるようにしていく。					
【授業の到達目標】					
・保育士として、市民として身に付けておくべき憲法についての基本的知識を身に付ける。 ・憲法の問題について関心をもつ。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	憲法とは何か(イントロダクション)		立憲主義の成立・展開、日本国憲法の内容を概観		
2	基本的人権総論		基本的人権の内容、制限、適用される主体や範囲		
3	統治機構総論		基本的人権保障の前提となる統治機構についての理解		
4	平等原則		憲法 14 条にいわれる法の下での平等についての理解		
5	参政権と議員定数不均衡		日本の選挙制度の特徴、現状の問題点についての理解		
6	表現の自由1ー表現の自由とその重要性		表現の自由の意義、名誉やプライバシー侵害の調整		
7	表現の自由2ー表現の自由とその制限		表現の自由の規制のあり方についての理解		
8	内心の自由		政教分離原則と重要性、信教自由中心の内心の自由		
9	経済活動の自由		経済的自由、特に職業選択の自由についての理解		
10	生存権		憲法25条「生存権」の持つ性質についての理解		
11	教育を受ける権利		憲法 26 条を中心に「教育を受ける権利」の内容の理解		
12	労働基本権		労働基本権についての理解		
13	幸福追求権 と新しい人権		「新しい人権」の憲法上の根拠付け、幸福追求権の理解		
14	平和主義		人権保障の前提となる平和の確保についての理解		
15	憲法改正と授業のまとめ		憲法 96 条・憲法改正をめぐる議論について		
【成績評価の方法と基準】					
前学期定期考査70点、授業への積極的な取り組み15点、レポート課題15点により評価する。 100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評価は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
吉田仁美(著)『スタート憲法(第3版)』 成文堂、2020					
【参考書】					
吉田仁美・渡辺暁彦(著)『憲法判例クロニクル』ナカニシヤ出版、2016 憲法を楽しむ会『憲法を楽しむ』 法律文化社、2020 佐伯仁志・大村淳志・荒木 尚志(著)『ポケット六法 令和5年版』 有斐閣、2022					
【備 考】					

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	2年 後期	専門科目	必修	2単位 30時間	授業形態(講義)
科目名	教育原理	担 当	沖田 由紀子 (実務経験者)		
			保育所に保育士及び所長として勤務		
【授業の概要】					
講義や主体的な調べ学習、グループワーク等のアクティブラーニングをとおして、生涯学習の中の幼児期であることを踏まえ質の高い教育・保育の実践者として、教育を学ぶ意味や、教育に対する見方・考え方等について視野を広げ、主体的に学び続けていく資質・能力の育成をはかる。					
【授業の到達目標】					
・教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関わりについて理解する。 ・教育の思想と歴史的変遷、諸外国の教育制度等、教育に関する基礎的知識を身に付ける。 ・教育実践の基礎について学び、生涯学習の基盤となる幼児教育・保育の現状と課題について理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	教育とは何か		人間形成と環境、 自発的活動の教育的意義と自発性の限界		
2	生涯学習体系の根幹		学校教育の根幹としての幼児教育の原体験、楽しさの教育的意義		
3	生涯学習の中の乳幼児期の教育の特性		生涯学習と発達課題、幼児の発達と教育、非認知的能力の育成		
4	教育と福祉との関係性		共通する「保育」の精神、教育内容の共通化・子育て支援の充実		
5	幼児教育の基本 ・環境を通して行う教育		人・もの・場などが相互に関連し合うような環境の構成		
6	・幼児期にふさわしい生活の展開		「信頼関係」「直接的・具体的な体験」「友だちとの関わり」		
7	・遊びを通しての総合的な指導及び援助		遊びこみを通して、諸能力が相互に関連し合い発達する特性		
8	・一人一人の発達の特性に応じた指導及び援助		一人一人の特性に即した指導・援助の必要性		
9	教育・保育の目的、目標・ねらい・内容		教育基本法、学校教育法、教育要領、保育指針		
10	遊びの教育的意義と自発性		遊びの歴史的な理解と今日的な理解		
11	諸外国・日本の教育思想と歴史、制度の変遷		教育思想の概要、近代の教育に影響を与えた教育思想家概観		
12	保育の方法と保育計画		保育形態、「子どもの発達の理解」と「保育者の援助」		
13	保育の評価(PDCAサイクル)		評価の視点「子どもの理解」と「援助の改善」		
14	保育者の役割とは		「心のよりどころ」「憧れを形成するモデル」「援助者」「理解者」として		
15	幼児教育の進展		保育者に求められること、 保育の新課題		
【成績評価の方法と基準】					
後学期定期考査70点、提出物10点、積極的な受講態度20点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評価は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
岸井勇雄・無藤隆・湯川秀樹(監)榎沢義彦(編)岸井勇雄・横山文樹他(著)『幼児教育の原理』同文書院、2018 厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【参考書】					
児童育成協会(監)矢藤誠慈郎・北野幸子(編)『新・基本保育シリーズ②教育原理』中央法規、2019					
【備 考】					

基本情報	2年 後期	専門科目	必修	2単位 30時間	授業形態(講義)
科目名	社会福祉	担 当	尾上 文恵		
【授業の概要】					
社会福祉の概念や理念、歴史的変遷及び現代的課題といった全体像および各制度における実施機関や専門職等、社会福祉に関する知識について説明し、社会福祉全体における児童家庭福祉の位置づけおよび役割を意識させる。					
【授業の到達目標】					
児童福祉制度が、社会福祉制度全体のなかで、どのような位置づけ・役割を担っているかを理解するとともに、子どもを通じて、その親や家族が必要としている支援について考え、適切な支援につなげていけるよう、各制度や専門職等について理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	社会福祉の理念と歴史的変遷		社会福祉の概念、理念 ・歴史的変遷、現代的課題		
2	子ども家庭支援と社会福祉		専門職としての保育士 ・子ども家庭支援の目的、課題		
3	社会福祉の制度と法体系		社会福祉制度の法体系、種類、具体的内容		
4	社会福祉行財政と実施機関、社会福祉施設等		社会福祉の行財政、費用負担 ・社会福祉施設		
5	社会福祉の専門職		社会福祉専門職の概要 ・地域における他職種等の連携、協働		
6	社会保障および関連制度の概要		社会保障制度の概要と役割 ・子育て世帯の現状		
7	相談援助の理論		相談援助理論の体系化、発展 ・相談援助理論		
8	相談援助の意義と機能		相談援助の特徴、原則、意義と機能		
9	相談援助の対象と過程		保育における相談援助とその対象、プロセス		
10	相談援助の方法と技術		保育現場における相談援助 ・相談援助の方法と技術		
11	社会福祉における利用者の保護にかかわるしくみ		利用者の権利擁護と苦情解決 ・情報提供と第三者評価		
12	少子高齢化社会における子育て支援		人口動態と少子化の現状、要因 ・少子化対策		
13	共生社会の実現と障害者施策		障害者のとらえ方、現状 ・共生社会の実現に向けて		
14	在宅福祉・地域福祉の推進		地域福祉の概念、方法 ・ニーズ把握 ・連携とネットワーク		
15	諸外国の社会福祉の動向		社会福祉と福祉国家 ・諸外国の社会福祉の歴史と動向		
【成績評価の方法と基準】					
後学期定期考査80点、提出物・レポート10点、受講態度10点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
児童育成協会(監)松原康雄・坪洋一・金子充(編)『新・基本保育シリーズ④ 社会福祉 第2版』中央法規、2023					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					
配布するレジュメ・資料(A4サイズ)を綴じるファイルを準備すること					

基本情報	2年 後期	専門科目	必修	2単位 30時間	授業形態(講義)
科目名	子ども家庭支援論	担 当	上 鶴 勝之 (実務経験者)		
			児童養護施設の所属長として勤務		
【授業の概要】					
子どもの育ちや家庭に対する支援を充実させるために、家族・家庭の意義を把握し、子育ての場としての家庭が抱える不安や課題などについて理解をする。また、社会的養護における家庭や保護者への関わり方について理解し、保育士として保護者支援、家庭支援の在り方について考える。					
【授業の到達目標】					
・保育士として様々な家族・家庭に関わるときに求められる適切な配慮として、受容的な関わり、自己決定の尊重、秘密保持などについて理解する。 ・多様な支援の展開・関係機関との連携について理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	子ども家庭支援の意義と必要性		子ども家庭支援の位置づけ、家族による子育てを支援する制度や民間活動の概要		
2	子ども家庭支援の目的と機能		児童福祉法、保育所保育指針、幼稚園教育要領に示されている子ども家庭支援の目的と機能		
3	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進		子ども家庭福祉の施策体系やその計画的推進、子ども・子育て支援新制度創設に至る経緯と新制度の枠組み、実施体制		
4	子育て家庭の福祉を図るための社会資源		子育て家庭の福祉を図るための社会資源の活用と課題と展望		
5	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義		保育の専門性と相談援助の関連性。専門性を活かした子育て支援の在り方		
6	子どもの育ちの喜びの共有		子どもたちの成長を保護者とともに感じ喜び合い共有することの意味		
7	保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援		地域の子育て家庭に取り巻く環境の把握と保護者に対する支援		
8	保育士に求められる基本的態度		ワーカーがとるべき7つの基本的態度(バイステックの7原則)		
9	家庭の状況に応じた支援		保育者に求められる役割と見落としやすい家族の状況		
10	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力		地域の多様な資源と自治体・関係機関との連携・協力に関する基本事項と実際の在り方		
11	子ども家庭支援の内容と対象		子ども家庭支援の対象、内容とアプローチの方法、そして支援の携帯		
12	保育所等の利用する子どもの家庭への支援		保育にたずさわる専門職に求められる子どもの家庭への支援 保育ソーシャルワークの視点		
13	地域の子育て家庭への支援		地域で子育てをしている家庭への支援、保育所における地域の子育て家庭に対する支援		
14	要保護児童およびその家庭に対する支援		要保護児童の現状を理解、児童・家庭への支援のあり方		
15	子育て支援に関する課題と展望		子育て支援のニーズの多様化、子育て支援プログラムの導入・課題		
【成績評価の方法と基準】					
後学期定期考査70点、レポート提出・内容20点、授業への取り組み10点により評価する。 100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
児童育成協会(監)松原康雄・村田典子・南野奈津子(編)『新・基本保育シリーズ⑤ 子ども家庭支援論』中央法規、2019					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					

基本情報	1年 後期	専門科目	必修	2単位 30時間	授業形態(講義)
科目名	保育者論	担 当	沖田 由紀子 (実務経験者)		
			保育所に保育士及び所長として勤務		
【授業の概要】					
子どもの育ちと保護者の子育てを支える保育士の専門性や制度的な位置付け等について教授する。					
【授業の到達目標】					
・保育士の役割と倫理について理解する。 ・保育士の連携・協働について理解する。 ・保育士の制度的な位置づけを理解する。 ・保育士の資質向上について理解する。 ・保育士の専門性及び保育の質の向上について考察し、理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	保育士の役割		児童福祉法に規定された保育士の二つの役割についての理解		
2	保育士の役割と職務内容		保育士の専門性にそった6つの役割と職務についての理解		
3	事例からみる保育士の役割		遊び場面における保育士の援助についてグループワーク		
4	保育士の倫理 ー全国保育士会倫理綱領ー		保育士に求められる専門的倫理についての理解		
5	保育士の資格と責務		保育士の定義、保育士の資格とその要件についての理解		
6	保育士の資質・能力		保育を考える・子どもを理解する・人とかかわる等3つの力の理解		
7	養護および教育の一体的展開		具体的事例をもとに保育士の援助についてグループワーク		
8	家庭との連携		保護者支援の必要性、子育て支援の基本の理解		
9	計画に基づく保育の実践と省察・評価		PDCAサイクルの必要性、子どもの主体性と指導の計画性の理解		
10	保育の質の向上		養護と教育の一体性、主体性の尊重による質の保障の理解		
11	職員間の理解		保育における引継ぎ、情報の共有化の重要性について理解		
12	地域社会との連携・協働		子どもの体験を豊かにする自然・人材・行事・施設等の活用について理解		
13	関係機関等の連携		地域型保育事業の概要、家庭的保育についての理解		
14	資質向上に関する組織的取り組み		省察的実践者である保育士のあり方についての理解		
15	まとめ		わたしの目指す保育士像		
【成績評価の方法と基準】					
後学期定期考査70点、授業への積極的取り組み20点、レポート課題への取り組み等10点により評価する。 100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上 A 70点以上80点未満 B 60点以上70点未満 C 60点未満 D					
【テキスト】					
児童育成協会(監)矢藤誠慈郎・天野珠路(編)『新・基本保育シリーズ⑦ 保育者論』中央法規、2019 厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	2年 後期	専門科目	必修	2単位 30時間	授業形態(講義)
科目名	子ども家庭支援の心理学	担 当	佐藤 みつよ (実務経験者)		
			幼稚園に教諭として勤務		
【授業の概要】					
生涯発達(人の誕生から死に至るまでの心身の構造・機能に生じる変化)や子どもの精神保健について心理学的知見を中心に説明する。また、子育て家庭についても、発達の特徴や時代的背景などを包括的にとらえられる視点が持てるようにしていく。					
【授業の到達目標】					
・生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 ・家族・家庭の意義や機能、子育て家庭をめぐる現代社会の社会状況と課題を理解する。 ・子どもの精神保健とその課題について理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	乳幼児期から学童期前期の発達		乳幼児期とは、学童期前期とは		
2	学童期後期から青年期の発達		学童期後期とは、青年期とは		
3	成人期・老年期の発達		成人期とは、老年期とは		
4	生涯発達の視点		初期経験の重要性、発達の理論と原理		
5	家族・家庭の機能の変容		家族・家庭とは何か、家族・家庭機能の変容		
6	子育てを取り巻く社会的状況		社会的問題、子育て支援		
7	現代の家庭における人間関係		家庭における人間関係の特徴、家庭内のコミュニケーション		
8	親になるということ		親になる過程、親としての悩み		
9	ワーク・ライフ・バランスと子育て		男女共同参画社会とは、ワーク・ライフ・バランスとは		
10	多様な家庭環境と子どもの育ち		現代の家庭環境の状況、孤立する子育て家庭		
11	特別な支援を必要とする家庭		ひとり親家庭、発達に課題をもつ子ども		
12	地域社会における家庭支援		地域社会における家庭支援、家庭支援を担う保育者の専門性		
13	子どもの生活環境と育ちへの影響		養育環境の変化、家庭という居場所		
14	子どもの発育と発達		子どもの身体発育と発達、乳幼児期に多い身体疾患		
15	子どもの心の健康と課題		子どもの心身症、子どもの精神疾患、児童虐待、発達障害		
【成績評価の方法と基準】					
後学期定期考査60点、提出物・受講態度40点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
藤田久美・瀧口綾(編著)『保育士を育てる②子ども家庭支援の心理学』一藝社、2020					
【参考書】					
厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル、2018					
【備 考】					

シ ラ バ ス

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	2年 後期	専門科目	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	子どもの理解と援助	担 当	佐藤 みつよ (実務経験者)		
			幼稚園に教諭として勤務		
【授業の概要】					
子どもの発達や学びに関する心理学的知見を、保育者になった際に実践で活かすことができるよう、グループワークでの学び合い等 をとし、理解させる。					
【授業の到達目標】					
・保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 ・子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解するための基本的な考え方や具体的方法を理解する。 ・子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	保育における子ども理解の意義		保育者の仕事と子ども理解、子ども理解の位置づけ		
2	子どもに対するかかわりと共感的理解		共感的理解の意味、受容や共感的理解を示す表現技法		
3	子どもの生活や遊び		乳幼児の基本的生活習慣の獲得、乳幼児期の遊び		
4	保育の人的環境としての保育者と子どもの発達		子どもを取り巻く人的環境とそのあり方・とらえ方		
5	子ども相互のかかわりと関係づくり		仲間とかかわるきっかけ、かかわりにおける保育者の役割		
6	集団における経験と育ち		遊び集団の成立過程、集団遊びにおける保育者の援助		
7	発達における葛藤やつまずき		いざこざの発達の变化、自我の発達		
8	保育の環境の理解と構成		子どもと環境、保育者と環境、環境構成の原則		
9	環境の変化や移行		さまざまな環境の変化や移行の場面とその影響要因		
10	子ども理解のための観察・記録と省察・評価		子ども理解の方法、観察・記録の方法、省察・評価の役割		
11	子ども理解のための職員間の対話		保育における対話と協働、保育カンファレンス		
12	子ども理解のための保護者との情報共有		保護者との情報共有の意義、情報共有の方法		
13	発達の課題に応じた援助とかかわり		「個人差」と「発達過程」の定義、発達の最近接領域		
14	特別な配慮を要する子どもの理解と援助		特別な配慮を要する子ども、インクルーシブ保育		
15	発達の連続性と就学への支援		発達と学びの連続性、保幼小連携		
【成績評価の方法と基準】					
後学期定期考査50点、提出物・受講態度50点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
清水益治、森俊之(編)『新基本保育シリーズ⑩子どもの理解と援助』中央法規、2019					
【参考書】					
厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル、2018					
【備 考】					

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	2年 後期	専門科目	必修	2単位 30時間	授業形態(講義・演習)
科目名	臨床心理学	担 当	長谷川 美枝子 (実務経験者)		
児童養護施設, 保健所, 発達支援センター, 小児科などに心理職として勤務					
【授業の概要】					
臨床心理学の理論やアセスメントの理論, 臨床的検査の理論, 臨床心理学的援助法, 問題行動のある子どもや気になる子ども・保護者への理解と対応, 保育者自身の成長について教授する。					
【授業の到達目標】					
子どもや保護者が心にトラブルを抱えた時, 保育者として心理学的アプローチで援助し, 対応・解決することができるよう, 臨床心理学理論を理解し, 臨床心理学的技術・実践方法を修得することを目標とする。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	第1章 臨床心理学とは		①臨床心理学の成り立ちと歴史 ②発達の基礎理論		
2	第2章 発達の基礎知識		①子どもの発達の援助 I (0～2歳の乳児)		
②子どもの発達の援助 II (3～4歳の幼児)					
③子どもの発達の援助 III (5～6歳の幼児)					
5	第3章 発達と心に表れるさまざまな症状		①子ども理解の意味と方法		
②問題行動とサイン ③被虐待児とマルトリートメント					
④発達障害					
⑤心身症 ⑥神経症 ⑦適応障害 ⑧うつ病					
9	第4章 心理アセスメントとカウンセリング		①心理検査 ②生物-心理-社会的モデル		
③カウンセリングマインド ④積極的傾聴					
⑤保護者の喪失体験 ⑥発達支援					
12	第5章 保育者の成長		①アサーション ②DESC法		
③質問への応答					
④応答の深さ					
⑤自分自身の性格傾向と対人関係の取り方の特徴					
【成績評価の方法と基準】					
後学期定期考査50点、課題レポート15点、確認小テスト35点による総合評価とする。 100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
配付資料					
【参考書】					
随時指示する					
【備 考】					

シ ラ バ ス

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	2年 通年(後期)	専門科目	必修	通年2単位 後期30時間	授業形態(演習)
科目名	子どもの食と栄養	担 当	谷野 真弓		
【授業の概要】					
子どもの発育・発達と食生活の関係、特別な配慮を要する子どもの食への対応について解説する。また、食生活環境の変化にともなう子どもの食の問題を取り上げ、小児期からの食育の重要性についても理解させる。「楽しく食べる子ども」を目標に、食育の事例研究から媒体作成、発表へと、食育の実践に必要な演習を展開する。					
【授業の到達目標】					
・子どもの発育・発達に応じた栄養と食生活について理解する。 ・食育の重要性を理解し、それを実践するための基本的な能力を身につけることができる。 ・特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
16	学童期・思春期の心身の発達と食生活、生涯発達と食生活①		学童期・思春期の成長と発達、食生活の特徴		
17	学童期・思春期の心身の発達と食生活、生涯発達と食生活②		妊娠期や授乳期の栄養と食生活、「妊産婦のやせが次世代の健康に及ぼす影響」より自己の食生活を考える		
18	保育における食育の意義・目的と基本的考え方		子どもの食生活の問題点、食育推進のための体制づくり、食育基本法、保育所等における食育の考え方		
19	食育の内容と計画および評価①		食育の内容と計画および評価、食育のための環境		
20	食育の内容と計画および評価②		保育所における食育実践事例の調査、食育実践事例紹介		
21	食育の内容と計画および評価③		食育実践計画①、食育媒体作成①		
22	食育の内容と計画および評価④		食育実践計画②、食育媒体作成②		
23	食育の内容と計画および評価⑤		食育媒体作成③		
24	食育の内容と計画および評価⑥		食育媒体作成④		
25	食育の内容と計画および評価⑦		食育実践発表①、意見交換		
26	食育の内容と計画および評価⑧		食育実践発表②、意見交換		
27	食育の内容と計画および評価⑨		食育実践発表③、意見交換		
28	地域や家庭と連携した食育の展開、家庭や児童福祉施設における食事と栄養		地域の関係機関・職員間の連携、食生活に関する保護者への支援、家庭や児童福祉施設における食事と栄養		
29	特別な配慮を要する子どもの食と栄養①		疾病および体調不良の子どもへの対応		
30	特別な配慮を要する子どもの食と栄養②		慢性疾患の子どもへの対応、食物アレルギーのある子どもへの対応、障害のある子どもへの対応・配慮		
【成績評価の方法と基準】					
後学期定期考査60点、授業態度25点、課題提出15点により評価する。 100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
児童育成協会(監)堤ちはる・藤澤由美子(編)『新・基本保育シリーズ⑫ 子どもの食と栄養』中央法規、2019					
【参考書】					
厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【備 考】					

基本情報	2年 後期	専門科目	必修	2単位 30時間	授業形態(講義)
科目名	保育の計画と評価	担 当	梶原 礼 (実務経験者)		
			幼稚園に教諭として勤務		
【授業の概要】					
子ども理解に基づく保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)、全体的な計画及び具体的な指導計画の作成の基本について教授する。					
【授業の到達目標】					
・保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。 ・全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。 ・子どもの理解に基づく保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)について、その全体構造を捉え、理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	保育における計画の意義①		計画の意義や必要性、主体性と計画性及び計画の要点		
2	保育における計画の意義②		全体的な計画作成の基本とポイント、振り返りの重要性		
3	日本におけるカリキュラムの基礎理論		カリキュラムの類型及び歴史		
4	子ども理解に基づく保育の循環		カリキュラム・マネジメントの必要性やアクティブ・ラーニング		
5	保育所保育指針の改定内容		規範性を有する基準としての性格、資質・能力、10の姿		
6	全体的な計画の作成の基本原理と方法		全体的な計画の作成の基本		
7	指導計画の作成①		指導計画の必要性和留意事項、長期の指導計画		
8	指導計画の作成②		短期の指導計画、日案の書き方		
9	保育の評価		評価の意義、記録の目的・意義と子どもの内面理解		
10	0歳児の指導計画		3つの視点と5領域、指導計画作成の留意点		
11	1歳以上3歳未満児の指導計画		個人差・家庭との連続した生活を考慮した指導計画		
12	3歳児・4歳児の指導計画		指導計画作成の基本、指導計画の実際と展開の理解		
13	5歳児の指導計画		子どもの姿の理解、指導計画(指導案)の考え方		
14	小学校との接続		子どもの育ちを小学校へつなぐ「要録」作成の意味		
15	まとめ		授業の振り返り		
【成績評価の方法と基準】					
後学期定期考査70点、提出物・受講態度30点により判断する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点満点:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
児童育成協議会(監)千葉武夫・那須信樹(編)『新保育基本シリーズ⑬教育・保育カリキュラム論』中央法規、2019 厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					

基本情報	2年 後期	専門科目	選択	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	器楽Ⅳ	担 当	渡邊 砂子 田北 嘉奈子 安部 千鶴		
【授業の概要】					
保育に必要な音楽教育のために、テキストを使った個人授業を行い、ピアノの演奏技術を教授する。					
【授業の到達目標】					
・保育者に求められるピアノの演奏形態と音楽表現の基礎を身に付ける。 ・子どもの歌を曲の表情に合わせて表現する力を身に付ける。 ・マーチやスキップなど、子どもの動きに合わせて演奏する力を身に付ける。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	イ短調の音階、73番、82番		上行形・下行形の違いと主要三和音、3度の重音、8度の跳躍		
2	74番、「タやけこやけ」		平行調への転調		
3	75番、「アイアイ」「森のくまさん」		左手保持音とシンコペーションの復習		
4	ニ長調の音階、89番、「犬のおまわりさん」		ニ長調の音階、装飾音と腕の交差		
5	バイエル、弾き歌い曲の振り返り		バイエル、弾き歌いの既習曲の復習と発表①		
6	連弾曲の学習、「あめふりくまのこ」		付点、3連符、リズムの理解		
7	連弾曲の学習、「あめふりくまのこ」		ペダルの練習、歌詞の内容の理解と表現		
8	連弾曲の学習、「あわてんぼうのサンタクロース」		両手伴奏、歌詞の内容を伝えるような歌い方の工夫		
9	連弾曲の学習、「あわてんぼうのサンタクロース」		リズムにのった軽やかな演奏の工夫		
10	連弾曲の発表		既習曲の発表②		
11	発表する曲の選曲・練習		2年間で学んだ内容の振り返りと発表曲の選曲		
12	発表曲の練習、「雪」		左手伴奏形の変化を意識した弾き方		
13	発表曲の練習、「うれしいひな祭」		ハ短調の理解と演奏のし方		
14	発表曲の練習		強弱やフレーズを意識した演奏		
15	独奏・連弾の発表		既習曲の発表③とまとめ		
【成績評価の方法と基準】					
課題曲及び選択曲で行う実技発表70点、授業時の実技評価及び授業態度30点により評価する。 100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
大学音楽教育研究グループ(編著)『教職課程のための 大学ピアノ教本 バイエルとツェルニーによる展開』教育芸術社、2014 鈴木恵津子・富田英也(監修・編著)『改訂ポケットいっぱいのおうた 実践こどものうた 簡単に弾ける144選』教育芸術社、2017					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					

シ ラ バ ス

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	2年 後期	専門科目	選択	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	音楽表現Ⅲ	担 当	関 純子		
【授業の概要】					
おはなしミュージカル「ただいま魔女見習い中」を通して、発声の基礎、振り付け、音楽表現技術を教授する。演技とは何かを学ばせる。					
【授業の到達目標】					
おはなしミュージカル「ただいま魔女見習い中」を通して、歌唱力、表現力を身に着け、上演できるようになる。クラスで協力して作り上げる喜びを知り、演出できるようになる。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	おはなしミュージカル「ただいま魔女見習い中」		曲についてと計画についての話 声のしくみ 音楽稽古		
2	「ただいま魔女見習い中」練習		「HAPPY MAGIC」「今にみてて！」キャスト・係決め		
3	「ただいま魔女見習い中」 練習		振り付けと練習 「今にみてて！」「冒険者」		
4	「ただいま魔女見習い中」 練習		振り付けと練習 「今にみてて！」「妖精たちのプレゼント」		
5	「ただいま魔女見習い中」 練習		振り付けと練習「冒険者」/壁紙制作		
6	「ただいま魔女見習い中」 練習		振り付けと練習 エンディング「失敗なんか気にしない」		
7	通し稽古と戻し稽古		歌と身体がしっかり結びつくように		
8	通し稽古と戻し稽古		セリフ稽古・役になりきって演技する		
9	「ただいま魔女見習い中」カットバージョン仕上げ		カットバージョンの仕上げ		
10	「ただいま魔女見習い中」残りの曲		「僕らがいれば」		
11	「ただいま魔女見習い中」残りの曲		「ごきげんななめ」		
12	「ただいま魔女見習い中」総復習		妖精たちの振り付けを中心に		
13	演技と演出のレッスン		写真エクササイズ 彫刻レッスン		
14	演技と演出のレッスン		考えることと感じることの両立		
15	まとめ		声と表現について 声の要素・表現と内面		
【成績評価の方法と基準】					
授業中や発表会での歌唱力や表現力70点、受講姿勢30点により評価する。100点満点で評価し、60点以上を合格とする。評定は評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:Dとする。					
【テキスト】					
井出真生(構成)『おはなしミュージカル 見習い魔女の冒険』DOREMI出版、2013 荒井弘高・中尾かつ江・三沢大樹(編著)『歌唱の基礎』主文社、2017					
【参考書】					
山崎広子著『人生を変える声の力』NHK出版、2017 平田オリザ著『演技と演出』講談社現代新書、2004 鴻上尚文著『演技と演出のレッスン』白水社、2021					
【備 考】					
学習発表会のときに、カットバージョンで演じることを想定しています。					

基本情報	2年 通年(後期)	専門科目	必修	通年2単位 後期30時間	授業形態(演習)
科目名	障害児保育	担 当	安東 和子		
【授業の概要】					
保育現場における特別な配慮の必要な子どもへの理解について、講義や演習、協議等をととして子ども達の障害の状態や発達段階、特性を理解させ、保育の指導における基礎・基本の知識について教授する。また、家庭や関係機関との連携を図りながら、小学校への就学に向けた見通しのある保育の必要性について考えを深めさせる。					
【授業の到達目標】					
1 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。 2 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。 3 障害児その他の特別な配慮を必要とする子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。 4 障害児その他の特別な配慮を必要とする子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。 5 障害児その他の特別な配慮を必要とする子どもの保育に関する現状と課題について理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
16	指導計画及び個別の支援計画の作成②		個別の支援計画や指導計画を作成後の活用を理解し、個別の支援計画や指導計画の課題について考える。		
17	発達をうながす生活や遊びの環境と子ども同士のかかわり・育ち合い①		保育者が考慮しなければならない子どもの生活と遊びの発達と環境、障害児保育の形態等について学ぶ。		
18	発達をうながす生活や遊びの環境と子ども同士のかかわり・育ち合い②		子どもどうしのかかわり・育ち合いのための環境構成や障害児保育を行う際の留意事項について考える。		
19	障害児保育における子どもの健康と安全①		障害児を保育するに当たっての健康状態の把握と安全管理についての基本を学ぶ。		
20	障害児保育における子どもの健康と安全②		子どもの障害の状態や健康・安全上の問題を整理し、保育者が子どもに医行為などの処置を行う際の条件を整理し確認する。		
21	職員間の連携・協働①		保育所の職員と保護者、専門機関などとの連携・協働について学ぶ。		
22	職員間の連携・協働②		発達障害のある子どもへ関係者の連携・協働について学ぶとともに、障害のある子どもの保育の在り方の変遷について確認する。		
23	保護者に対する理解および保護者間の交流や支え合いの意義と支援①		障害のある子どもの保護者への支援の基本姿勢や障害受容について学ぶ。		
24	保護者に対する理解および保護者間の交流や支え合いの意義と支援②		家庭への支援について保護者同士の交流や支え合い、きょうだいへの支援について理解を深める。		
25	地域の専門機関との連携①		地域にある関係機関とその機能および保育所における専門機関との連携の内容や方法について学ぶ。		
26	地域の専門機関との連携②		関係機関との連携に求められる意味合いの変化および保育所が連携に求めるニーズの現状について理解する。		
27	小学校等との連携①		小学校への就学指導にかかる基本的事柄、移行支援の実際と課題について学ぶ。		
28	小学校等との連携②		小学校等への就学後の支援について学び、移行支援の現状や課題、可能性について考える。		
29	福祉・教育における現状と課題①		地域の子育て支援の拠点である保育所における障害のある子どもに係る法制度を学び、理解する。		
30	福祉・教育における現状と課題②		障害のある子どものための支援制度の変化を理解することをととして、地域での連携の意義やその課題について学ぶ。		
【成績評価の方法と基準】					
後学期定期考査50点、課題提出・配布資料の整理40点、受講姿勢10点 前学期・後学期の成績を平均し、通年で評価。 100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
児童育成協会(監)西村重稀・水田敏郎(編)『新基本保育シリーズ⑪ 障害児保育』中央法規、2019					
【参考書】					
厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【備 考】					

基本情報	2年 後期	専門科目	必修	1単位 30時間	授業形態(講義)
科目名	子育て支援	担 当	安東 和子		
【授業の概要】					
少子化社会における子育ての現状や子育て支援の意義・基本を理解するとともに、子育て支援の内容や方法、技術について演習・協議を通して理解する。					
【授業の到達目標】					
・保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援について、その特性と展開を具体的に理解する。 ・保育士の行う子育て支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	子育て支援の制度的な基盤		「子どもの育ち」につながる子育て支援の在り方とその意義について、関係法令や制度とともに理解する。		
2	子育て支援の意義		社会的背景を把握するとともに、保育所等が果たす役割及び関係機関との連携について理解する。		
3	子育て支援の基本的価値・倫理		子どもの最善の利益の尊重、保護者の自己決定の尊重、保護者の状況に配慮した個別の支援について理解する。		
4	子育て支援の基本的姿勢		保護者との相互理解、プライバシーの保護と秘密保持等について理解する。		
5	子育て支援の基本的技術		子育て支援に必要なコミュニケーション技法を具体的に理解する。		
6	園内・園外との連携と社会資源		園内での連携及び他職種、地域の人々との連携や社会資源の活用について理解を深める。		
7	記録・評価・研修		記録作成時の文章の書き方、記録作成時に活用する図やチェックリストについてその内容と方法を学び理解する。		
8	日常会話を活用した子育て支援		送迎時の保護者とのやり取りやコミュニケーションの基本を理解するとともに、トラブルへの対応方法を学ぶ。		
9	文書を活用した子育て支援		連絡帳や園(クラス)だより等の文書のあることを学び、保護者向け文書の書き方の基本を習得する。		
10	行事などを活用した子育て支援		子育て支援における行事等の意義を理解し、保護者の自主活動を側面的に支援する方法について学ぶ。		
11	環境を活用した子育て支援		子育て支援における環境の構成と特性について理解する。		
12	地域子育て支援拠点における支援		地域子育て支援拠点における主なサービス内容と支援方法を知るとともに、利用する保護者の心理について理解する。		
13	入所施設における子育て支援		入所施設を利用する保護者の傾向や支援の方法等について理解する。		
14	通所施設における子育て支援		通所施設を利用する保護者の特性や支援の基本、保護者へのかかわりの姿勢について理解する。		
15	まとめと今後の課題		これまでの学びを振り返ると共に、今後の自己課題を明確にする。		
【成績評価の方法と基準】					
後学期定期考査50点、課題の提出20点、授業への積極的取組20点、学習ノートの整理等10点により評価する。 100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
二宮祐子(著)『「子育て支援」15のストーリーで学ぶワークブック』 萌文書林、2018 厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【参考書】					
【備 考】					

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	2年 通年(後期)	専門科目	必修	通年2単位 前期30時間	授業形態(演習)
科目名	保育実践演習	担 当	安東 和子 佐藤 みつよ(実務経験者)	沖田 由紀子(実務経験者) 梶原 礼(実務経験者)	工藤 冴
			幼稚園に教諭として勤務	保育士並びに保育所長として勤務 幼稚園に教諭として勤務	
【授業の概要】					
グループワーク、ロールプレイング等の授業方法を活用し、これまでの自らの学びを振り返ったり、保育に関する現代的課題について考察したりしながら自己課題を明確にし、保育実践の基礎的な資質・能力の定着をはかる。					
【授業の到達目標】					
・保育に関する専門的知識及び技術・責任感・判断力・倫理観・社会性や対人能力等が習得されたか、自らの学びを振り返り把握する。 ・保育実習の体験や情報の収集等に基づき、保育に関する現代的課題について考察する力を習得する。 ・自己の課題を明確化し、保育実践に際して必要となる基礎的な資質・能力を身につける。					
【授業の計画】			【内 容】		
16	実習の振り返りと自己評価		履修カルテによる自己評価及び自己課題の確認を行う。		
17	食育の推進について		子どもの発達過程に応じた食の支援について考える。		
18	教材を考える①		グループに分かれて食育の教材を考える。		
19	教材を考える②		グループに分かれて食育の教材を作成する。		
20	教材を考える③		グループに分かれて発表練習を行う。		
21	考えた教材の発表・反省		グループごとに発表と反省を行う。		
22	子どもの人権について		子どもの最善の利益と適切な保育について考える。		
23	社会人としてのこころえ		接遇マナー、電話の応対、同僚性について学び合う。		
24	保育実践①		年齢に応じたあそびうた、わらべうた等		
25	保育実践②		年齢に応じた簡単なルールのある遊びや運動遊び、体操等		
26	保育実践③		絵本の読み聞かせから育つことについて考える。		
27	成長し続ける保育者となるために		『求められる保育者像』についてグループワークを通して考え合う。		
28	全体的な計画の作成		全体的な計画作成の手順について理解を深める。		
29	環境構成の基本		環境構成の方法と工夫について学ぶ。		
30	指導計画の作成		保育の評価と計画の再編成について考えを深める。		
【成績評価の方法と基準】					
課題の提出60点、発表やグループワーク等への積極的取り組み40点により評価する。 100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
児童育成協議会(監)千葉武夫・那須信樹(編)『新保育基本シリーズ⑬教育・保育カリキュラム論』中央法規、2019 河邊貴子・鈴木康弘・渡邊英則(編著)『新しい保育講座⑦ 保育内容「健康」』ミネルヴァ書房、2020 厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【参考書】					
汐見稔幸・新保庄三・野澤祥子(著)『子どもの「じんけん」まるわかり』ぎょうせい、2021 久津摩英子・星山麻木(著)『わらべうたセラピー』学研教育みらい、2022					
【備 考】					

令和5年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	2年 後期	教養科目	必修	2単位 30時間	授業形態(講義)
科目名	文学	担 当	富成 碩甫		
【授業の概要】					
日本の文化としての昔話を理解することで、よりよい保育・幼児教育をめざす向上心を養う。昔話の変遷を知ることで保育現場での困難性、問題点を解決する能力を養う。日本の昔話を学ぶことで日本文化の伝統と民族性を理解することができるようにする。子どもたちが、日本人としての強さと誇りを持ったおとなになれるよう、日本の伝統文化や民族性を伝える技術を身につけさせる。					
【授業の到達目標】					
・保育・幼児教育に対する使命と責任とを自覚し、個性豊かな人間性を持った保育・幼児教育者になることを目標にする。 ・保育専門職としての課題探求能力・問題解決能力などの実践力を養うことを目標とする。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	テーマ1愛と別れ「蛇智入」「狐女房」		人間が異類と結婚する昔話(異類婚姻譚)を題材にして、その「愛と別れ(夫婦の愛・親子の愛)」が何をもたらすのかを考えさせる。		
2	テーマ2恵み「地蔵浄土」「鼠浄土」		庶民の地蔵信仰を反映した昔話を題材にして、将来子どもたちが絶望を味わった時、いかに生きるかを子どもたちに伝えられるようにする。		
3	テーマ2恵み「おむすびころりん」「笠地蔵」		他者を思いやるやさしい心を伝えることができるようにする。		
4	テーマ3逃走「三枚の護符」「牛方山姥」		逃走譚である二つの昔話を題材にして、命の大切さを伝えることができるようにする。		
5	テーマ4夢と運「藁しべ長者」「鳩提灯」「三年ねたろう」		「運」というものは、その人の人生を変えてしまうこともある。三つの昔話を題材にして、人生において「運」はどのように作用するのかを考えさせる。		
6	テーマ5冒険「一寸法師」		子どもの心をとらえる冒険の昔話「一寸法師」を題材にして、勇気を持つことの大切さを伝えることができるようにする。		
7	テーマ5冒険「桃太郎」		鬼ヶ島遠征譚である「桃太郎」を題材にして、平和の大切さ、愛国心の大切さを伝えることができるようにする。		
8	テーマ6悪と欲「瘤取爺」「舌切雀」「花咲爺」		勧善懲悪を扱った昔話の強欲な婆爺を扱った話を題材にして、人間の心の中にある「悪と欲」に打ち勝つことの大切さを伝えることができるようにする。		
9	テーマ7報復「猿蟹合戦」		正当な報復を語った昔話「猿蟹合戦」を題材にして、報復することのむなしさと終わりのなさを伝えることができるようにする。		
10	テーマ7報復「かちかち山」		正当な報復を語った昔話「かちかち山」を題材にして、報復することのむなしさと終わりのなさを伝えることができるようにする。		
11	テーマ8笑いととんち「餅は本尊様」「茶栗柿麴」		笑話と呼ばれる昔話を題材にして、ユーモアの大切さと、人生にゆとりをもつことの大切さを伝えることができるようにする。		
12	テーマ9友情「旅人馬」		他者の人格を大切にすることが真の友情である。その友情を扱った「旅人馬」を題材にして、友情の大切さを伝えることができるようにする。		
13	テーマ10時代「浦島太郎」		「浦島伝説」を題材にして、日本文化に親しむことの大切さを伝えることができるようにする。		
14	テーマ10時代「浦島太郎」		「浦島伝説」を題材にして、日本文化に親しむことの大切さを伝えることができるようにする。		
15	まとめ		保育士としての仕事の中に「昔話」や「児童文学」を取り入れ、子どもたちの心を豊かにすることができるようにする。		
【成績評価の方法と基準】					
後学期定期考査(講義内容についての筆記試験60点、作文40点)により評価する。 100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上 A 70点以上80点未満 B 60点以上70点未満 C 60点未満 D					
【テキスト】					
真野須美子(著)『日本の昔話の変遷・メッセージ』明治図書出版、2015					
【参考書】					
関敬吾(著)『日本昔話集成』角川書店、1970					
【備 考】					